

はじめに

履修ガイドについて

この『履修ガイド』は、教育課程、履修方法などの学修に関する事項や、免許・資格取得に必要な科目履修方法など、本学での学修を進めていくうえで必要な事項を集約したもので、在学期間の中で計画的に学修し、卒業要件単位を修得するために、まずこの履修ガイドを最後まで読み、内容についてよく理解をしましょう。履修登録や各種手続きについては、「オリエンテーション」で詳しく説明されます。また不明な点については、自分で判断せずに早めに教務課やメンター・ゼミ担任教員に相談するにしてください。『履修ガイド』の内容に変更が生じた場合は、UNIVERSAL PASSPORTで随時お知らせします。

オフィス・アワーについて

学生からの質問対応、学修に対する動機づけ、教員とのコミュニケーションなどを目的として「オフィス・アワー」を教員ごとに設けています。あらかじめ担当教員が示す特定の時間帯（毎週2回、各90分）に、研究室内外で教員との交流を深めていきます。ぜひこの機会を活用して、学習上の成果を上げてください。なお、各教員の「オフィス・アワー」の時間帯については、研究室前の掲示物等で随時確認するにしてください。

1. 履修の手引き

卒業に必要な履修科目および単位の修得方法は、本学学則や履修規程に定められています。

「履修」とは、履修申請を行った講義を通しての学習状況・出席状況および試験（レポートなど）による成績評価の結果、合格と判定されその授業科目の配当単位を修得することをいいます。

本学では多彩な授業科目を開設していますが、それらを学び十分な学習成果をあげるためには、将来を見据えた教育者・指導者像を思い描き、それぞれの学習目的に沿った体系的な履修計画をたてることが重要です。そのうえで、免許・資格科目の履修を含め、目的に応じて卒業に必要な単位数を修得しなければなりません。

(1) 授業時間割表

『授業時間割表』は、年度ごとに作成され、当該年度に開講されるすべての授業科目、授業コード、配当年次、実施学期（前期・後期・通年・集中）、担当教員および教室などを掲載したもので、年度当初に全学生にUNIVERSAL PASSPORTで配布されます。

履修科目的決定および履修登録に際しては、この『授業時間割表』を活用してください。なお、開講授業科目の授業コード・曜日・時限は毎年度同じとは限りません。

(2) 授業概要（シラバス）

『授業概要（シラバス）』は、授業開始に先立って、授業計画をあらかじめ知らせ、学習意欲の向上、学修内容の充実を図ることを目的に作成されています。教養科目、専門基礎科目、コア科目、その他の科目といった科目区分ごとに体系的にまとめ、それぞれ全学科共通科目、学部共通科目および学科専門科目の順で編成されています。授業概要是UNIVERSAL PASSPORTにおいて閲覧することができます。

＜授業概要記載項目＞

科目コード、科目区分、授業科目名、担当者名、配当年次、配当学期、単位数、授業方法、卒業要件必修・選択の別、授業の概要、授業の到達目標、授業の方法、準備学習（予習・復習等）、卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連、成績評価法、教科書・参考書、授業計画など

(3) 履修登録

履修登録とは、学生自身が自分の責任において自分の履修したい授業科目を予め届けでることです。もし、履修登録を怠ると、試験も受けられませんし単位認定もありえない重大な事態に陥ります。履修登録期限日までに必ず全員、履修登録をしてください。どの授業科目を受講しそのように単位を修得するかは、大学入学時の目標や将来への方向づけと極めて関連の深い問題です。この機会にこれらを再確認のうえ、自己理解を深めて、将来への自分の人生設計を確立しておきましょう。

年度当初のオリエンテーションで履修ガイダンスを行いますので、必ず出席してください。やむを得ない理由で欠席する場合は、メンター・ゼミ担当教員または教務課にあらかじめ連絡をしてください。

＜履修登録の流れ＞

- (1) 1年次オリエンテーションで配布される「履修計画表」を参考にして履修科目を選択してください。
- (2) 学年暦の履修登録期間もしくは履修登録訂正期間中に、UNIVERSAL PASSPORTで前期分と後期分の履修科目を登録してください。
- (3) 履修登録後、内容に間違いないかどうか確認し、前期・後期の自分の時間割表をスクリーンショット（またはプリントアウト）し、必ず保管してください。また保存した画面をメンター・ゼミ担当教員に提出してください。
- (4) もしエラーが表示された場合は、エラーの内容を確認し、履修登録の注意事項が守られているか確認してください。履修登録の注意事項を守っているにもかかわらず、エラー表示が解消されない場合は、エラー画

面をスクリーンショットし、メンターまたはゼミ担当教員に画像を提出してください。

- (5) 後期最初の1週間に履修訂正期間を設けますので、UNIVERSAL PASSPORTで後期分の履修訂正をしてください。
- (6) 前期・後期の履修登録期間終了後に履修登録辞退を受けます。詳細はUNIVERSAL PASSPORTで連絡します。
- (7) 実習教科や集中講義の中には、別途履修登録が必要となるものも含まれます。

＜履修登録注意事項＞

- (1) 履修登録をされていない科目はいかなる理由があっても単位認定できません。
- (2) カリキュラムの年次配当にしたがって、該当する学年・学期の開講科目を履修登録してください。
- (3) 上級年次配当の科目は履修登録できませんが、下級年次配当の科目は履修登録可能です。
- (4) 初回授業で履修人数を抽選する科目もあります。初回の授業に欠席した場合、履修登録が出来なくなる可能性があります。
- (5) 初回の授業で抽選による履修人数制限を行う科目もありますので、履修登録を考えている科目的授業には必ず出席してください。
- (6) 同一曜日・時限においては1科目しか履修登録できません。
- (7) 同一科目を同一年度に重複して履修登録できません。
- (8) 単位修得済みの科目については再履修登録ができません。
- (9) 履修登録訂正期間に登録エラーの訂正を行わなかった科目は履修登録できません。
- (10) 病気等やむを得ない理由で所定の期間内に履修登録できない場合は教務課に申し出してください。

●履修登録単位数の上限

本学では、1年間に履修登録できる単位数の上限を40単位としています。ただし、複数の免許・資格を取得するため40単位を超える場合はこの限りではありません。

●他学部・他学科の科目履修

学生は、履修規定に基づき、本学他学部及び他学科において開講する科目を最大20単位まで履修することができます。履修の条件等は「他学部・他学科履修等に関する内規」を確認してください。

本学他学部及び他学科において履修した単位は、24単位までを修得単位として卒業要件単位に算入することができます。

(4) 単位のルール

大学の授業は、「単位」の考え方をもとにして行われています。「単位」とは、授業科目の修得に必要な学習量をはかる基準となるものです。開講する授業科目にはそれぞれ単位数が定められており、この単位を修得するためには、所定の時間を学習して試験その他の方法により合格しなければなりません。卒業の判定はこの修得した単位数に基づいて行われます。

また、卒業のために必要な単位数は124単位以上となっていますが、数字上で124単位を満たしていても、各学科で定める科目区分ごとに必要単位を満たさなければなりません。なお、卒業に必要な授業科目区分ごとの修得すべき単位数については後述します。

●単位の計算方法

本学では、次のように定めています。

学則 第24条

授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算するものとする。

- (1) 講義、演習、及び講義・演習については、15時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 実験、実習、及び実技については、30時間の授業をもって1単位とする。

- 2 前項の規定にかかわらず、卒業研究等の授業科目については、学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合には、これらに必要な学修等を考慮して、単位数を定めることができる。

2. 教育課程

(1) 教育課程の編成と特色

本学の教育課程は、全学部共通の「教養科目」と、各学科でそれぞれ編成する「専門科目群（専門基礎科目、コア科目など）」とによって分類されています。これは、従来の大学で行われてきた一般教養科目・専門科目という分類方法に代わる本学独自の授業科目区分です。

さらに各学部・学科で掲げる教育上の目的に応じた科目区分を設けることで、有機的・体系的に授業科目が配置された教育課程編成となっています。これにより、学部・学科の専門的な学芸を教授するとともに、幅広く深い教養および総合的な判断力を培っていきます。

また各授業科目は、必修科目、選択科目および自由科目に分けて各年次に配当されています。

- ①必修科目…卒業するために必ず履修しなければならない科目
- ②選択科目…一定の科目群の中から選択して履修する科目

●教養科目

教養科目は、「言語・文化領域」「汎用的技能領域」「人間・表現領域」「数理領域」「社会領域」「キャリア領域」の6つの領域で構成されており、人間とそれを取り巻く文化的・自然的環境への理解を深め共感を抱くこと、また自己啓発意識を育むことを目標としています。

2020年度以降の入学生に対しては、「英会話」、「体育理論・実技」（体育学科を除く）、「コンピュータリテラシー」、「フレッシュマンセミナー」、「キャリアディベロップメント」、「キャリアデザイン」、「基礎ゼミナールⅠ」、「基礎ゼミナールⅡ」などを必修科目として開講しています。「IPUジェネリックスキルズ」では1年次から3年次にかけて、非認知能力、アカデミックスキルズ、市民性について学び育んでいきます。選択科目として「人権と教育」、「食育論」、「日本国憲法」など、幅広い分野の科目を開講し、基礎となる理論・技能の習得を通じて今後の学習の基礎を涵養するという視点でそれらが1～4年次に配当されています。

科 目 区 分	
教養科目	言語・文化領域
	汎用的技能領域
	人間・表現領域
	数理領域
	社会領域
	キャリア領域

●専門科目群〔専門基礎科目・コア科目〕

(1) 専門基礎科目

社会人としての人間形成と幅広い教養、柔軟な思考を身につけることと専門科目の基礎を構築し、広い視野と国際感覚を涵養することを目的とした科目です。

(2) コア科目

各学部・学科の専門性を深めるための専門科目で、各学科の科目区分は次のとおりとなっています。

体育学部（教育課程の編成方針[カリキュラム・ポリシー]）

体育学部では、学部のディプロマ・ポリシーに従って、豊かな人間性、幅広い教養、基礎的学習能力、健康・スポーツ科学に関する専門的知識、運動技能、健康・スポーツの指導ができる実践力、キャリア形成に向けての総合的能力を身に付けることを目的に、大きく下記の3つの科目区分に分けて、学科ごとに体系的なカリキュラムを編成する。

○教養科目、○専門基礎科目、○コア科目

教養教育では、幅広い内容の科目を履修する一方で、専門教育（専門基礎科目、コア科目）においては、スポーツや健康に関する専門知識と技能及びキャリアに関する多様な科目を履修する。

各科目共に、資質や能力を総合的に判定し、それぞれが成績にどのように反映されるか、評価の配分割合をシラバスに明記している。学習成果として、「卒業研究」や「課題レポート」、「教職実践演習」において全てのディプロマ・ポリシーを満たすことが出来ているかの最終的な確認・判定を行う。

体育学科

体育学科では、ディプロマ・ポリシーに従って、以下の方針に基づいてカリキュラムを編成し、実施する。

- 1) 豊かな人間性、幅広い教養と実践力を身に付けるために、教養科目として、「言語・文化領域」、「汎用的技能領域」、「人間・表現領域」、「数理領域」、「社会領域」、「キャリア領域」の6つのカテゴリーに区分して科目を編成し、「キャリア領域」でのフレッシュマンセミナーや基礎ゼミナールでは、少人数でのメンター制度を採用し、学生が主体的な学びを実践できるように配慮する。
- 2) 専門基礎科目は、体育学の基礎科目を配置し、健康増進、体力の向上、競技力向上、教育力の向上に貢献できる基礎的知識や現代社会において果たす教育・スポーツの役割に関して多面的な学習を行う。
- 3) コア科目は、学生のキャリアに応じた「フィジカルコーチ」、「スポーツ科学」、「スポーツマネジメント」、「教員養成」、「公務員」の5つのカテゴリーに区分した科目を編成し、各領域における専門科目の体系的な学習を行うと共に、これらを実践できる力を養う。

実技に関する科目は、スポーツ・武道及び体育・健康づくりに関する基礎的な技術力を養うとともに、発育段階や競技スポーツ、生涯スポーツ、学校体育などの場面で求められる体系的な実技指導力を獲得する。

キャリアに関する科目は、「教育実践」「インターンシップ」「ゼミナール」の3つのカテゴリーに区分して科目を編成し、卒業研究やゼミナールでは、現代社会において果たす体育・スポーツの役割を深く理解させ、コミュニケーション能力、課題探求力、問題解決力などの総合的能力を身に付けさせるよう配慮する。

以上のように、豊かな人間性、国際的、全国的、地域的な各レベルの体育・スポーツ界をリードする多様な専門家養成を目指したカリキュラムを構成しており、これらの評価については、レポートや定期試験で評価を行う。

＜体育学部 体育学科 の専門科目群＞

専門科目群は、「専門基礎科目（体育学）」、「コア科目（フィジカルコーチ、スポーツ科学、スポーツマネジメント、教員養成、公務員、体育実技、教育実践、インターンシップ、ゼミナール、自由科目）」の2区分で編成されており、設定された5コースごとにコア科目の授業科目を選択していきます。

科目区分		開講授業 総単位数	履修方法
専門科目群	専門基礎科目	体育学	52 必修科目4単位を含む 24単位以上
	コア科目	フィジカルコーチ	32
		スポーツ科学	32
		スポーツマネジメント	14
		教員養成	36
		公務員	26
		体育実技	26 必修科目8単位、選択 必修科目4単位を含む 46単位以上
		教育実践	9
		インターンシップ	8
		ゼミナール	12
		自由科目	16

健康科学科

健康科学科では、ディプロマ・ポリシーに従って、以下の方針に基づいてカリキュラムを編成し、実施する。

- 1) 豊かな人間性、幅広い教養を身に付け、問題発見・解決する能力を育成し、倫理観や教養を高めるために、「語学と基礎技能の理解」、「人間の理解」、「自然の理解」、「社会の理解」、「キャリアプランニング」の5つのカテゴリーに区分して科目を編成する。カリキュラムの実施に当たっては、基礎理論の構築後、実践においてさらに専門性を深めるために、体育実技・柔道整復実技、健康運動施設実習等の科目を編成している。
 - 2) 健康科学への深い知識と実践力の基礎を構築し、広い視野と体育学における感覚を涵養するために、体育学・健康科学の基礎をなす科目を多く編成する。実践を踏まえて理論の見直しや現場での体験・実習活動を1年次から4年次に渡り継続的に取り入れている。学内・外で実践的経験を積む「整復臨床実習Ⅰ～Ⅳ（学内・学外）」や「アスレティックトレーナー実習Ⅰ～Ⅱ（学内）」、「健康運動実習（学外）」も導入している。
 - 3) 健康科学の専門性を深めるために、コア科目を「健康運動分野」、「スポーツ医科学分野」、「柔道整復分野」の3つの分野に分けて、体系的に科目を編成する。ゼミナールの分野における大学教育での教育課程を促進させるために、「課題研究Ⅰ」、「課題研究Ⅱ」を編成する。
- 実技に関する科目を除くその他の科目では、レポートや定期試験で評価を行う。実技・実習科目においては、実践的な力と理論的な力を多方面的にレポートや定期試験、実技試験等で評価する。総合評価として「ゼミナールⅡ（応用）」において最終的な確認を行う。

＜体育学部 健康科学科 の専門科目群＞

専門科目群は、「専門基礎科目（体育学、健康科学）」、「コア科目（健康運動分野、スポーツ医科学分野、柔道整復分野、体育実技・柔道整復実技、インターンシップ、ゼミナール）」の2区分で編成されており、授業科目を選択していきます。

科目区分		開講授業 総単位数	履修方法
専門 科目 群	専門基礎科目	30 38	25単位以上
	コア科目	健康運動分野	必修科目10単位を含む 75単位以上
		スポーツ医科学分野	
		柔道整復分野	
		体育実技・柔道整復実技	
		インターンシップ	
		ゼミナール	

次世代教育学部（教育課程の編成方針[カリキュラム・ポリシー]）

次世代教育学部では、学部のディプロマ・ポリシーに従って、豊かな人間性、幅広い教養、基礎的学習能力、教育学・保育学・心理学・社会学などに関する専門的知識とそれらを活かす実践力、コミュニケーション能力、異文化理解力を身に付けることを目的に、大きく下記の3つの科目区分に分けて、学科ごとに体系的なカリキュラムを構成する。

○教養科目、○専門基礎科目、○コア科目

教養教育では、幅広い内容の科目を履修する一方で、専門教育（専門基礎科目、コア科目）においては、教育的知識や技能に加えて、豊かな人間性やコミュニケーション能力を身に付けるために多様な科目を履修する。

各科目共に、資質や能力を総合的に判定し、それぞれが成績にどのように反映されるか、評価の配分割合をシラバスに明記している。学修成果として、「ゼミナールⅡ」「卒業研究」すべてのディプロマ・ポリシーを満たすことが出来ているかの最終的な確認・判定を行う。

こども発達学科

こども発達学科では、ディプロマ・ポリシーに従って、以下の方針に基づいてカリキュラムを編成し、実施する。

- 1) 豊かな人間性、幅広い教養と実践力を身に付けるために、教養科目を「言語・文化領域」、「汎用的技能領域」、「人間・表現領域」、「数理領域」、「社会領域」、「キャリア領域」の6つのカテゴリーに区分して編成する。「保育マネジメント演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」は2年間にわたる保育実践演習授業として展開し、「保育実践的授業」を大学構内で実践し、学生が企画・運営・指導にあたる。また、グループワークやディスカッションによる少人数教育と双方向型授業をより充実させる。
- 2) 専門基礎科目は、「次世代教育学」を基礎に置き、保育士資格・幼稚園教員免許取得のためのカリキュラムとして「保育・幼児教育の基礎理論」「保育・幼児教育の基礎技能」「領域・教科等に関する基礎理解」を編成し、プレゼンテーションや実践活動を通して、コミュニケーション能力、保育・教育実践力を養う。
- 3) コア科目は、「子どもの発達に関する領域」「保育・幼児教育に関する領域」に区分して科目を編成し、特色ある科目として「幼児心理学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」「幼児英語指導法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」「幼児体育指導法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の3つの選択コースを設定し、各個人の専門性を高めていく。

さらに、卒業研究やゼミナールでは、コミュニケーション能力、課題探求力、問題解決力などの総合的能力を身に付けられるように配慮する。

以上のように、豊かな人間性を備え、コミュニケーション能力、多面的な子ども理解とその支援ができる専門性を身に付け、次世代の発展と構築に貢献する、国際的でグローバルな保育者・教育者・指導者の養成を目指したカリキュラム編成をしている。

これらの評価については、レポートやプレゼンテーション、幼児を対象とした行事運営に展開、実技試験、定期試験等で到達点を見極めながら総合的に評価を行う。

＜次世代教育学部 こども発達学科 の専門科目群＞

専門科目群は、「専門基礎科目（次世代教育学、保育・幼児教育の基礎理論、保育・幼児教育の基礎技能、領域・教科等に関する基礎理解）」、「コア科目（子どもの発達に関する領域、保育・幼児教育に関する領域、保育・幼児教育実践に関する領域、インターンシップ、ゼミナール）」の2区分で編成されています。

科目区分		開講授業 総単位数	履修方法
専門科目群	専門基礎科目	次世代教育学	2
		保育・幼児教育の基礎理論	14
		保育・幼児教育の基礎技能	10
		領域・教科等に関する基礎理解	10
	コア科目	子どもの発達に関する領域	21
		保育・幼児教育に関する領域	38
		保育・幼児教育実践に関する領域	31
		インターンシップ	3
		ゼミナール	12

教育経営学科

教育経営学科では、ディプロマ・ポリシーに従って、以下の方針に基づいてカリキュラムを編成し、実施する。

1) 豊かな人間性、幅広い教養と実践力を身に付けるために、教養科目として、「言語・文化領域」、「汎用的技能領域」、「人間・表現領域」、「数理領域」、「社会領域」、「キャリア領域」の6つのカテゴリーに区分して科目を編成し、アクティブラーニングなどを通じて主体的かつ協同的な学びより、深く確実な学びを実践できるように配慮する。

2) 専門基礎科目は、「次世代教育学」を基礎に置き、小学校教科あるいは中学校・高等学校の英語教科の「教育・指導に関する領域」、「教科等に関する領域」と「日本語教育に関する領域」に分けて科目を編成し、教職の基礎を理解し、教科に関する基礎力を培い、グローバル社会に対応できる力を養う。

3) コア科目は、「心理・社会の領域」、「教育経営・学級経営に関する領域」、「教育実践の領域」「日本語教育実践の領域」「教育経営・その他の領域」に区分して科目を編成し、専門科目の体系的な学習を行い、授業においては、理論と実践の融合を図ることで、教育現場で実践できる素地を養う。

キャリアに関する科目は、「教育実践」、「インターンシップ」、「ゼミナール」に区分して編成し、卒業研究やゼミナールでは、コミュニケーション能力、課題探求力、問題解決力などの総合的能力を身に付けられるよう配慮する。

以上のように、豊かな人間性、今日的教育課題、子ども理解、学級マネジメント力などこれらの教育に対応できる教員養成を目指したカリキュラムを構成している。また、これらの評価については、レポートや定期試験等で到達度を見極めながら総合的に評価を行う。

<次世代教育学部 教育経営学科 の専門科目群>

〔小学校教育専攻〕

小学校教育専攻の専門科目群は、「専門基礎科目（次世代教育学、教育・指導に関する領域、教科等に関する領域、日本語教育に関する領域）」、「コア科目（心理・社会の領域、教育経営・学級経営に関する領域、教育実践の領域、日本語教育実践の領域、教育経営・その他の領域、教育実践、インターンシップ、ゼミナール）」の2区分で編成されています。

科目区分		開講授業 総単位数	履修方法
専門科目群	専門基礎科目	次世代教育学 教育・指導に関する領域 教科等に関する領域 日本語教育に関する領域	2 22 20 12
	コア科目	心理・社会の領域 教育経営・学級経営に関する領域 教育実践の領域 日本語教育実践の領域 教育経営・その他の領域 教育実践 インターンシップ ゼミナール	必修科目4単位を含む 30単位以上
		4 16 32 6 8 16 5 12	
			必修科目14単位を含む 40単位以上

〔中高英語教育専攻〕

中高英語教育専攻の専門科目群は、「専門基礎科目（次世代教育学、教育・指導に関する領域、英語に関する領域、日本語教育に関する領域）」、「コア科目（心理・社会の領域、教育経営・学級経営に関する領域、英語教育実践の領域、日本語教育実践の領域、教育経営・その他の領域、教育実践、インターンシップ、ゼミナール）」の2区分で編成されています。

科目区分		開講授業 総単位数	履修方法
専門科目群	専門基礎科目	次世代教育学 教育・指導に関する領域 英語に関する領域 日本語教育に関する領域	2 18 32 12
	コア科目	心理・社会の領域 教育経営・学級経営に関する領域 英語教育実践の領域 日本語教育実践の領域 教育経営・その他の領域 教育実践 インターンシップ ゼミナール	必修科目4単位を含む 42単位以上
		4 16 14 6 8 16 5 12	
			必修科目14単位を含む 28単位以上

経済経営学部（教育課程の編成方針[カリキュラム・ポリシー]）

経済経営学部では、学部のディプロマ・ポリシーに従って、豊かな人間性・幅広い教養に基づく課題提案力、異文化理解に基づくコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力、国際人としての自覚とアイデンティティーの涵養に基づく実践力と生涯学習力、経営に対する総合的な学習経験に基づく知識の習得とそれらを活かす実践力を身に付けることを目的に、大きく以下の3つの科目区分に分けて、学科ごとに体系的にカリキュラムを構成する。

○教養科目、○専門基礎科目、○コア科目

教養教育では、幅広い内容の科目を履修する一方で、専門教育（専門基礎科目、コア科目）においては、経営的知識や技能に加えて、豊かな人間性や倫理観、課題提案力を身に付けるために多様な科目を履修する。

各科目共に、資質や能力を総合的に判定し、それぞれが成績にどのように反映されるか、評価の配分割合をシラバスに明記している。学修成果として、「卒業研究」すべてのディプロマ・ポリシーを満たすことが出来ているかの最終的な確認・判定を行う。

現代経営学科

現代経営学科では、ディプロマ・ポリシーに従って、以下の方針に基づいてカリキュラムを編成し、実施する。

1) 豊かな人間性・幅広い教養に基づく課題提案力

アカデミックリテラシーを始めとして、必要な人間性や倫理観に裏打ちされた豊かな教養を身に付けるために、教養科目は語学と基礎技能の理解、人間の理解、自然の理解、社会の理解、キャリアプランニングの育成を行う科目を配置する。また、初年次から少人数制による基礎ゼミナールをスタートしていくことで、課題を見つける力、考え方力、コミュニケーション能力を養っており、専門科目の主体的学びの育成をサポートしている。

2) 異文化理解に基づくコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力

教養科目、専門基礎科目、コア科目のすべてにおいて異なる考え方、文化など多様性を受け入れる広い視野と許容力を育成する科目を配置している。また、各科目ともに、ディスカッションと双方向型授業を主体とした授業運営を行い、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力育成に重点を置いた指導を行っている。

3) 国際人としての自覚とアイデンティティーの涵養に基づく実践力と生涯学習力

科目においては、専門基礎科目内に「国際コミュニケーション領域」を設置し、国際人・リーダーとしてグローバルに活躍できる授業を展開している。また、同時に留学生と幅広くディスカッションが行える教育環境の提供と共に、充実した交換留学制度の提供、海外インターンシップの提供を行っている。

4) 経営に対する総合的な学習経験に基づく知識の習得とそれらを活かす実践力

専門基礎科目としては、必修科目の経営学概論、経済学概論、ミクロ経済学、マクロ経済学をはじめとした、経済経営領域の科目を配し、マネジメント、経営学、経済学、会計学、マーケティングの基礎を学ぶことにより、現代のビジネス社会に必要な基礎知識や社会の仕組みに関して多面的な学習を行う。

コア科目として、経営総合、スポーツビジネス、公共経営、キャリア形成、ゼミナールにおける専門科目の体系的な学習とその実践を通じて、理論と実践を融合させる。

成績評価は、受講態度、報告・発表、レポート課題、試験など多様な方法を組み合わせて総合的に評価を行う。

＜経済経営学部 現代経営学科 の専門科目群＞

専門科目群は、「専門基礎科目（経済経営領域、国際コミュニケーション領域）」、「コア科目（総合経営、スポーツビジネス、公共経営、キャリア形成、ゼミナール）」の2区分で編成されています。

科目区分		開講授業 総単位数	履修方法
専門 科目群	専門基礎科目	60 40	24単位以上
	コア科目	経営総合	84
		スポーツビジネス	14
		公共経営	26
		キャリア形成	75
		ゼミナール	12

(2) 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

環太平洋大学は、挑戦と創造の教育を建学の精神とし、①豊かな人間性と個性、②深い専門性と実践力、③コミュニケーション能力とグローバルマインドを身に付けた人材の育成を目指している。こうした人材を育成するため、各学部の教育課程により学業を修め、学部・学科等ごとに定められた学位授与水準（学力・能力・資質）を満たし、上記能力を持つ人材として認められる学生に対し、学士の学位を授与する。

＜体育学部＞

体育学部では、大学・学部の教育研究上の目的、人材養成の目的に従って、定められた124単位以上の単位を修得し、豊かな人間性、健康・スポーツ科学に関する専門的知識と、競技スポーツ、健康運動、健康・スポーツ教育、社会体育のいずれかの分野に関する実践力、コミュニケーション能力とグローバルマインドを身に付けた学生に「学士（体育学）」もしくは「学士（健康科学）」の学位を授与する。

体育学科

体育学科では、大学・学部・学科の人材養成の目的に従って、豊かな人間性を備え、国際的、全国的、地域的な各レベルの体育・スポーツ界をリードする多様な専門家の養成を目指している。

そこで、以下の資質・能力を身に付けた学生に学位「学士（体育学）」を授与する。

- 1) 体育・スポーツの科学的知見を深め、スポーツを通じた国際的平和の促進について理解する能力を身に付けている。
- 2) 健康増進、体力の向上、また競技力向上に貢献できる専門的な知識・技能を身に付けている。
- 3) 幅広く深い教養を身に付け、体育・スポーツ人としての立場を歴史・社会・自然と関連付けて理解する能力を身に付けている。
- 4) 現代社会において果たす体育・スポーツの役割を理解し、様々な立場の人々と良好な関係を築きながら職務を遂行できるコミュニケーション能力を身に付けている。
- 5) 科学的根拠や思考を持って、体育・スポーツ現場の諸問題に対応できる能力を身に付けている。
- 6) 体育・スポーツに携わる指導者に求められる、豊かな人間性、幅広い教養に根差した公共的使命感や倫理観、協調できる社会的スキルを身に付けている。
- 7) 体育・スポーツに関する科学的知見をベースに自らの課題を見つけ、課題解決に取り組み続けることができる生涯学習力を身に付けている。
- 8) 修得した知識・技術・態度等の全てを総合的に活用し、自らが立案した新たな課題に主体的、創造的に取り組み、その課題を解決できる能力を身に付けている。

健康科学科

健康科学科では、大学・学部・学科の人材養成の目的に従って、豊かな人間性を備え、柔道整復分野、健康科学分野、スポーツ医科学分野の教育研究を通じて社会に貢献ができるとともに、それら各分野のリーダーとして活躍できる指導者・教育者の養成を目指している。

そこで、以下の資質・能力を身に付けた学生に「学士（健康科学）」の学位を授与する。

- 1) 医療人として、広範でグローバルな視点と知識を身に付けている。
- 2) 柔道整復学及び健康科学、スポーツ医科学分野に必要な専門知識と技能を理解し、日々進歩する医学分野に対応できる能力を身に付けている。
- 3) 幅広く深い教養を身に付け、体育・スポーツ人としての立場を歴史・社会・自然と関連付けて理解する能力を身に付けている。
- 4) 医療人として現代社会に果たす役割を理解し、様々な立場の人々と良好に職務を遂行できるコミュニケーション能力を身に付けている。
- 5) 科学的根拠や思考を持って医療現場やスポーツ現場の諸問題に対応できる能力を身に付けている。
- 6) 感性豊かな人間性と高い医業倫理を備え、柔道整復学を中心として、健康科学、体育学、スポーツ医科学の学際的領域で他者と協調できるスキルを身に付けている。
- 7) 日進月歩する医学に対し、医療人として学び続ける生涯学習力を身に付けている。
- 8) 修得した知識・技術・態度等の全てを総合的に活用し、自らが立案した新たな課題に主体的、創造的に取り組み、その課題を解決できる能力を身に付けている。

＜次世代教育学部＞

次世代教育学部では、大学・学部の教育研究上の目的、人材養成の目的に従って、定められた124単位以上の単位を修得し、豊かな人間性、教育学・保育学・心理学・社会学などに関する専門的知識とそれらを活かす実践力、コミュニケーション能力、異文化理解力を身に付けた学生に「学士（次世代教育学）」の学位を授与する。

こども発達学科

こども発達学科では、大学・学部・学科の人材養成の目的に従って、豊かな人間性を備え、コミュニケーション能力、多面的な子ども理解とその支援ができる専門性を身に付け、次世代の発展と構築に貢献する、グローバルな保育者養成を目指している。

そこで、以下の資質・能力を身に付けた学生に学位「学士（次世代教育学）」を授与する。

- 1) 多文化共生時代の保育者として、グローバルな視野で保育観を磨き、国際理解のための知識を身に付けている。
- 2) 乳幼児期から青年期に至るまでの子どもに対しての発達的、教育的、心理的、感性的、福祉的観点等、多面的に子どもを理解する能力を身に付けている。
- 3) 子どもを取り巻く環境、様々な問題や文化状況に対して、子ども学の知見と教養に基づく知識と、理解する能力を身に付けている。
- 4) 保育者としての自己管理力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観等を身に付けている。
- 5) 子どもや保護者・教育関係者との円滑な人間関係を築くための、問題解決力、論理的思考力、情報リテラシー・数量的スキル等の力を身に付けている。
- 6) 保育・教育実習、実践活動等の経験を踏まえ、社会人としてのルールを遵守し、自己管理力、チームワークやリーダーシップ、倫理観等の力を身に付けている。
- 7) 主体的に自己の学習を振り返り、セルフマネジメント能力と生涯学習力を身に付けている。
- 8) 広く豊かな社会的常識、人間的に成熟した保育・教育観を持ち、地域社会の実情に応じ、学術性を備えた保育・教育を推進する実践力・創造的思考力を身に付ける。

教育経営学科

教育経営学科では、大学・学部・学科の人材養成の目的に従って、豊かな人間性を備え、初等教育あるいは中等教育（英語）に関する知識・技能を修め、それらをグローバルな視点で活かす実践力、コミュニケーション能力を有した次世代の教育者や指導者の養成を目指している。

そこで、以下の資質・能力を身に付けた学生に学位「学士（次世代教育学）」を授与する。

- 1) グローバルな視点と知識を持ち、多文化・異文化について理解する能力を身に付けている。
- 2) 専門的知識を実践的に修得し、発達等の子ども理解に基づいた的確な学習指導や生徒指導、学級経営力を身に付けている。
- 3) 豊かな教養と、現代日本の社会と学校教育に関する幅広い知識と、理解する能力を身に付けている。
- 4) 周囲と良好な人間関係を築き、自己の考えを的確に伝えられるコミュニケーション能力を身に付けている。
- 5) 情報機器や教材の活用を含めた学習指導方法の基本とともに、問題解決に向かう論理的・批判的思考力を身に付けている。
- 6) 高い倫理観と規範意識、自己コントロール力、教師としての職責を果たそうとする真摯な姿勢を身に付けている。
- 7) 子どもの未来に対する強い使命感と責任感を持ち、教師としての成長をめざした生涯学習力を身に付けている。
- 8) 修得した知識・技能・態度を総合的に活用し、現代の教育課題に積極的に取組み、解決できる能力を身に付けている。

＜経済経営学部＞

経済経営学部では、大学・学部での教育研究上の目的、人材育成の目的に従って、定められた124単位以上の単位を修得し、豊かな人間性と生涯学習力、経営に対する総合的な学習経験に基づく知識の習得とそれらを活かす実践力および、幅広い教養に基づく課題提案力やプレゼンテーション能力、異文化理解に基づくコミュニケーション能力、そして国際人としての自覚を身に付けた学生に「学士（経営学）」の学位を授与する。

現代経営学科

現代経営学科では、大学・学部・学科の人材養成の目的に従って、豊かな人間性を備え、高い専門性と実行力を持ち、的確なマネジメントを実行できるリーダーシップ、グローバルな視点、新事業への挑戦、社会的責任を自覚した企業経営等の要請に応じることができる自律的人材の養成を目指している。

そこで、以下の資質・能力を身に付けた学生に学位「学士（経営学）」を授与する。

- 1) グローバルに拡大している企業活動、市場経済、公的分野に関連する社会現象、市場について分析・理解する能力を身に付けている。
- 2) 広く経営に関わる専門知識・技能を備え、企業に関連する社会現象を分析・理解し、新たな戦略を創造・提案できる能力を身に付けている。
- 3) 国際人・リーダーとして「社会に貢献する経営」を実践するための豊かな教養として、歴史・社会・自然を含めた学際的な知識を身に付けている。
- 4) 社会や企業活動、経済活動に必要な情報を収集し、課題解決のため意見を交わし提案するコミュニケーション能力を身に付けている。
- 5) 現実の課題に対し、経営活動での知識や情報をもとに論理的・数量的に分析する力、戦略的に問題解決に向けた意思決定をする力を身に付けている。
- 6) グローバル化・情報化による多様な環境変化の下、高い倫理観と豊かな教養力で問題解決に向けチームワークを構築する力を身に付けている。
- 7) 主体性・積極性を持って学習し、グローバルな課題解決の一端を担い、国際社会に貢献し、同時に生涯学習力を身に付けている。
- 8) 総合的な学習経験で得られる知識を連動させ、新たな課題に対応できる社会人材（課題を見つける力、創造的思考力、コミュニケーション能力）を身に付けている。

(3) 卒業の要件

本学を卒業するためには、最低4年間を在学し、学科ごとに定める授業科目および修得単位数の要件を満たし、卒業に必要な124単位以上を修得していることが必要です。

●修業年限

修業年限とは、本学を卒業するために必要な在学期間です。また、本学に在学できる最長の期間を「在学年限」といいますが、修業年限の2倍を超えて在学することはできません。

- (1) 修業年限を超えて、履修上の要件を満たしていない、あるいは卒業に必要な単位を修得していない場合は「留年」となります。卒業判定の結果により留年となった場合は、所定の学納金を納入することで引き続き在学できますが、留年期間は最長4年までとなっています。
- (2) 休学期間は修業年限に算入されません。ただし、提携教育機関への留学などについては、修業年限に算入することが認められます。
- (3) 編入学生の修業年限は、入学を許可された年次の学生と同様の取扱いとなります。

●卒業に必要な履修科目および修得単位数の要件

学科ごとに定める科目区分から履修要件を満たすように授業科目を履修し、卒業に必要な124単位以上を修得してください。なお、編入学生の場合、入学前における大学等での修得単位については、教育上有益と認める場合、本学で履修した単位として認定します。この場合の卒業に必要な単位の履修方法は、入学許可年次の学生と同様となります。

科目区分	卒業要件単位数					
	体育学科	健康科学科	こども発達学科	教育経営学科 (小学校教育専攻)	教育経営学科 (中高英語教育専攻)	現代経営学科
教養	30	24	30	30	30	30
専門基礎	24	25	28	30	42	24
コア	46	75	42	40	28	46
全体(その他科目を含む)	24	—	24	24	24	24
合 計	124	124	124	124	124	124

※ 編入学生などの入学前における大学等での修得単位について、教育上有益と認める場合は、本学の教育課程に基づいて、本学で履修した単位として認定します。

※ ただし、教職科目と資格科目については、本学で履修した単位として認定はできません。

<体育学部 体育学科>

教養科目より必修科目を含む30単位以上を修得し、専門科目群である専門基礎科目から必修科目を含む24単位以上、コア科目から必修科目および選択必修科目を含む46単位以上を修得し、合計124単位以上を、教育課程表に記載されている科目の中から修得してください。

<体育学部 健康科学科>

※1 柔道整復師養成施設必修科目、※2 柔道整復師養成施設選択必修科目の中から「教育課程と指定規則との対比表（柔道整復師）」（履修ガイドP48～50）に掲げる科目区分ごとの履修方法及び卒業要件に沿って、履修を行うものとします。その上で、教養科目より必修科目22単位を含む24単位以上、専門基礎科目より25単位以上、コア科目より必修科目を含む75単位以上を修得し、合計124単位以上修得してください。

<次世代教育学部 こども発達学科>

教養科目より必修科目を含む30単位以上を修得し、専門科目群である専門基礎科目から必修科目および選択必修科目を含む28単位以上、コア科目から必修科目を含む42単位以上を修得し、合計124単位以上を、教育課程表に記載されている科目の中から修得してください。

<次世代教育学部 教育経営学科（小学校教育専攻）>

教養科目より必修科目を含む30単位以上を修得し、専門科目群である専門基礎科目から必修科目を含む30単位以上、コア科目から必修科目を含む40単位以上を選択し、合計124単位以上を、教育課程表に記載されている科目の中から修得してください。

<次世代教育学部 教育経営学科（中高英語教育専攻）>

教養科目より必修科目を含む30単位以上を修得し、専門科目群である専門基礎科目から必修科目を含む42単位以上、コア科目から必修科目を含む28単位以上を選択し、合計124単位以上を、教育課程表に記載されている科目の中から修得してください。

<経済経営学部 現代経営学科>

教養科目より必修科目を含む30単位以上、専門科目群である専門基礎科目より24単位以上、コア科目より必修科目を含む46単位以上を修得し、合計124単位以上を、教育課程表に記載されている科目の中から修得してください。

●卒業判定

本学に4年以上在学し、各学科の履修要件を満たしたうえで、卒業に必要な124単位以上を修得した場合は、教授会の議を経て学長が卒業を認定し、学部専門分野の学位が授与されます。なお、卒業判定の結果は、3月上旬頃に通知されます。

<授与される学位名称>

学部・学科名称		学位名称
体育学部	体育学科	学士（体育学）
	健康科学科	学士（健康科学）
次世代教育学部	こども発達学科	学士（次世代教育学）
	教育経営学科	
経済経営学部	現代経営学科	学士（経営学）

(4) 免許および資格取得について

各種資格の取得に関しては「第2章 免許・資格取得に必要な科目履修方法」を、教職免許状の取得に関しては「教職の手引き」（別冊子）を参照してください。

(5) 教育課程表

<体育学部 体育学科 教育課程> 【2022年度入学生対象】

科目区分	授業科目的名称	授業種別	配当		単位数		備考
			年次	学期	必修	選択必修	
言語・文化領域	英会話	演習	1	前期	2		
	日本の伝統文化	講義	1	前期		2	
	多文化共生のための異文化理解	講義	2	後期		2	
	英語 I	演習	1	後期		2	
	英語 II	演習	2	前期		2	
	英語 III	演習	3	前期		2	
	英語 IV	演習	3	後期		2	
	小計(7科目)		7	—	2	0	12
	コンピュータリテラシー I	演習	1	前期	2		
	体育実技	実技	1	前期		1	
汎用的技能領域	IPUジェネリックスキルズ I (非認知能力)	講義	1	前期	2		
	TOEIC I	講義	1	前期		2	
	TOEIC III	講義	1	前期		2	
	コンピュータリテラシー II	演習	1	後期	2		
	体育理論	講義	1	後期		1	
	IPUジェネリックスキルズ II (アカデミック)	講義	1	後期	2		
	TOEIC II	講義	1	後期		2	
	TOEIC IV	講義	1	後期		2	
	コンピュータリテラシー III	演習	2	前期		2	
	IPUジェネリックスキルズ III (シチズンシップ)	講義	2	後期		2	
教養科目	統計学	講義	3	前期		2	
	コンピュータリテラシー IV	演習	3	前期		2	
	小計(14科目)		14	—	8	0	18
	表現活動による人間力養成 I	演習	1	通年		2	
	心理学	講義	1	前期		2	
	倫理学(宗教を含む)	講義	1	後期		2	
	表現活動による人間力養成 II	演習	2	通年		2	
	人権と教育	講義	2	前期		2	
	ライフコーチング	演習	2	後期		2	
	表現活動による人間力養成 III	演習	3	通年		2	
数理領域	コミュニケーションの心理学	講義	3	前期		2	
	表現活動による人間力養成 IV	演習	4	通年		2	
	人間と法	講義	4	前期		2	
	小計(10科目)		10	—	0	0	20
	数学基礎	講義	2	前期		2	
社会領域	数学	講義	2	後期		2	
	自然科学基礎	講義	3	前期		2	
	食育論	講義	3	前期		2	
	生命科学基礎	講義	3	前期		2	
	小計(5科目)		5	—	0	0	10
キャリア領域	政治・経済学	講義	1	後期		2	
	日本国憲法	講義	1	後期		2	
	経営学	講義	2	前期		2	
	労働法規	講義	3	前期		2	
	近現代史	講義	3	後期		2	
	地理・地政学	講義	3	後期		2	
	労働安全衛生法	講義	3	後期		2	
キヤリア領域	小計(7科目)		7	—	0	0	14
	基礎ゼミナール I	演習	1	通年	2		
	フレッシュマンセミナー	講義	1	通年	2		
	ボランティア活動 I	演習	1	集中		2	
	基礎ゼミナール II	演習	2	通年	2		
	キャリアディベロップメント	講義	2	通年		2	
	ボランティア活動 II	演習	2	集中		2	
	キャリアデザイン I	講義	3	前期	1		
	キャリアデザイン II	講義	3	後期	1		
	キャリアサポート	講義	4	前期		2	
	小計(9科目)		9	—	10	0	6
	合計(52科目)		52	—	20	0	80

<体育学部 体育学科 教育課程> 【2022年度入学生対象】

科目区分	授業科目の名称	授業種別	配当		単位数		備考	
			年次	学期	必修	選択必修		
専門基礎科目 体育学	体育原理	講義	1	前期	2			
	体育心理学	講義	1	前期		2		
	トレーナー論	講義	1	前期		2		
	健康科学概論	講義	1	前期		2		
	スポーツ科学入門	講義	1	前期		2		
	運動器の解剖と機能Ⅰ	講義	1	前期		2		
	発育と発達	講義	1	後期		2		
	運動学	講義	1	後期		2		
	スポーツ経営学	講義	1	後期		2		
	生理学	講義	1	後期		2		
	データサイエンス入門	講義	1	後期		2		
	運動器の解剖と機能Ⅱ	講義	1	後期		2		
	体育社会学	講義	2	前期		2		
	公衆衛生学	講義	2	前期		2		
	運動生理学	講義	2	前期		2		
	コーチング論	講義	2	前期		2		
	トレーニング論Ⅰ(基礎)	講義	2	後期		2		
	スポーツバイオメカニクス	講義	2	後期		2		
	スポーツ栄養学	講義	2	後期		2		
	体育行政学	講義	2	後期		2		
	スポーツ法学	講義	2	後期		2		
	救急処置	演習	2	集中		2		
	障害者スポーツ論	講義	3	前期		2		
	国際スポーツ論	講義	3	前期		2		
	体育史	講義	3	後期		2		
	スポーツのリスクマネージメント	講義	3	後期		2		
	小計(26科目)		26	—	—	4	0	48
	合計(26科目)		26	—	—	4	0	48
コア科目 フィジカルコーチ	トレーニング演習Ⅰ(基礎)	演習	1	後期			2	
	アスレティックトレーナーの役割	講義	2	前期			2	
	スポーツ外傷・障害の基礎知識Ⅰ	講義	2	前期			2	
	検査・測定と評価Ⅰ	講義	2	前期			2	
	アスレティックトレーナー現場実習Ⅰ	実習	2	前期			1	
	アスレティックトレーナー現場実習Ⅱ	実習	2	後期			1	
	スポーツ外傷・障害の基礎知識Ⅱ	講義	2	後期			2	
	予防とコンディショニングⅠ	講義	2	後期			2	
	検査・測定と評価Ⅱ	講義	2	後期			2	
	アスレティックリハビリテーション基礎	講義	2	後期			2	
	トレーニング演習Ⅱ(応用)	演習	2	後期			2	
	アスレティックトレーナー現場実習Ⅲ	実習	3	前期			1	
	アスレティックリハビリテーションⅠ	講義	3	前期			2	
	予防とコンディショニングⅡ	講義	3	前期			2	
	健康管理とスポーツ医学	講義	3	後期			2	
	アスレティックリハビリテーションⅡ	講義	3	後期			2	
	アスレティックトレーナー現場実習Ⅳ	実習	3	後期			1	
	アスレティックトレーナー現場実習Ⅴ	実習	4	前期			2	
	小計(18科目)		18	—	—	0	0	32

<体育学部 体育学科 教育課程> 【2022年度入学生対象】

科目区分	授業科目の名称	授業種別	配当		単位数		備考
			年次	学期	必修	選択必修	
スポーツ科学	健康管理概論	講義	1	後期		2	
	解剖生理学	講義	2	前期		2	
	スポーツメンタルトレーニング論	講義	2	前期		2	
	スポーツ心理学	講義	2	後期		2	
	スタジオエクササイズ	演習	2	後期		2	
	スポーツアナリティクス I	実習	2	通年		2	
	スポーツバイオメカニクス実習	実習	3	前期		1	
	トレーニング論 II(応用)	講義	3	前期		2	
	スポーツ健康論	講義	3	後期		2	
	スポーツ相談の実際	講義	3	後期		2	
	病理学	講義	3	後期		2	
	スポーツ栄養学実習	実習	3	通年		2	
	体力学実習	実習	3	通年		2	
	運動生理学実習	実習	3	通年		2	
	スポーツアナリティクス II	実習	3	通年		2	
	トレーニング指導実習	実習	3	集中		1	
	運動障害と予防および救急処置	講義	4	前期		2	
小計(17科目)		17	—	—	0	0	32
ヨア科目	レクリエーション論	講義	1	後期		2	
	レクリエーションスポーツ	実技	2	前期		1	
	スポーツ施設論	講義	2	前期		2	
	スポーツイベント論	講義	2	前期		2	
	総合型地域SC運営演習	演習	2	集中		2	
	労働衛生学	講義	3	後期		2	
	スポーツ・レクリエーション演習	演習	3	後期		2	
	スポーツイベント運営実習	実習	3	集中		1	
小計(8科目)		8	—	—	0	0	14
教員養成	教育の思想と原理	講義	1	前期		2	
	教育心理学	講義	1	前期		2	
	教職入門	講義	1	後期		2	
	保健体育科指導法 I(基礎)	講義	1	後期		2	
	保健体育科指導法 II(応用)	講義	2	前期		2	
	発達心理学	講義	2	後期		2	
	総合的な学習の時間の指導法	講義	2	後期		2	
	教育相談(中等)	講義	2	後期		2	
	学校保健	講義	2	後期		2	
	特別活動の指導法	講義	2	後期		2	
	生徒指導・進路指導論	講義	2	後期		2	
	保健体育科指導法 III(発展)	講義	2	後期		2	
	教育の方法及び技術(情報通信技術の活用含む)	講義	3	前期		2	
	道徳教育の理論及び指導法	講義	3	前期		2	
	教育課程論	講義	3	後期		2	
	教育社会学	講義	3	後期		2	
	特別支援教育論	講義	3	後期		2	
保健体育科指導法 IV(実践)		講義	4	前期		2	
小計(18科目)		18	—	—	0	0	36

<体育学部 体育学科 教育課程> 【2022年度入学生対象】

科目区分	授業科目の名称	授業種別	配当		単位数		備考
			年次	学期	必修	選択必修	
公務員	フィットネスプログラム論	講義	2	前期		2	
	キャリアマネジメント I	講義	2	後期		2	
	武道指導論	講義	2	後期		2	
	武道指導演習 I (基礎)	演習	3	前期		2	
	スポーツ健康演習	演習	3	前期		2	
	キャリアマネジメント II	講義	3	前期		2	
	スポーツ文化論	講義	3	前期		2	
	体育測定・評価	講義	3	前期		2	
	公務員と法	講義	3	前期		2	
	キャリアマネジメント III	講義	3	後期		2	
	生涯体育教育総論	講義	3	後期		2	
	武道指導演習 II (応用)	演習	3	後期		2	
	キャリアマネジメント IV	演習	4	通年		2	
	小計(13科目)		13	—	0	0	26
コア科目	陸上 I (基礎)	実技	1	前期	1		※1 器械運動 I (基礎)、陸上 I (基礎)、ダンス I (基礎)から1科目以上選択必修
	器械運動 I (基礎)	実技	1	後期	1		
	防災キャンプ	実技	1	集中	1		
	水泳 I (基礎)	実技	1	集中	1		
	雪上スポーツ	実技	1	集中	1	1	
	インクルーシブスポーツ	実技	1	集中			※2 柔道 I (基礎)、剣道 I (基礎)から1科目以上選択必修
	ダンス I (基礎)	実技	2	前期	1		
	柔道 I (基礎)	実技	2	前期	1		
	剣道 I (基礎)	実技	2	前期	1		
	バスケットボール I (基礎)	実技	2	前期	1		
	バレーボール I (基礎)	実技	2	後期	1		※3 バスケットボール I (基礎)、バレーボール I (基礎)、ラグビー、サッカー、ソフトボール、ハンドボール I (基礎)から1科目以上選択必修
	ラグビー	実技	2	後期	1		
	サッカー	実技	2	後期	1		
	ソフトボール	実技	2	後期	1		
	ハンドボール I (基礎)	実技	2	後期	1		
	キャンプ実習	実習	2	集中		1	※4 防災キャンプ、水泳 I (基礎)、雪上スポーツから1科目のみ選択必修
	器械運動 II (応用)	実技	2	前期		1	
	ダンス II (応用)	実技	2	後期		1	
	柔道 II (応用)	実技	2	後期		1	
	剣道 II (応用)	実技	2	後期		1	
	バスケットボール II (応用)	実技	2	後期		1	
	体つくり運動	実技	2	後期		1	
	陸上 II (応用)	実技	2	後期		1	
	ハンドボール II (応用)	実技	3	前期		1	
	バレーボール II (応用)	実技	3	前期		1	
	剣道 III (発展)	実技	3	後期		1	
	小計(26科目)		26	—	0	14	12
教育実践	学校支援ボランティア	実習	2・3・4	集中		1	
	介護等体験実習	実習	2・3・4	集中		1	
	教育実習事前・事後指導(保健体育)	演習	3・4	集中		1	
	教育実習 I (中学校・高等学校)	実習	3・4	集中		2	
	教育実習 II (中学校)	実習	3・4	集中		2	
	教職実践演習	演習	4	後期		2	
	小計(6科目)		6	—	0	0	9

<体育学部 体育学科 教育課程> 【2022年度入学生対象】

科目区分	授業科目の名称	授業種別	配当		単位数		備考
			年次	学期	必修	選択必修	
コア科目	海外研修	実習	1・2・3	集中		1	
	サービスラーニングⅠ	実習	1	集中		1	
	サービスラーニングⅡ	実習	2	集中		1	
	サービスラーニングⅢ	実習	3	集中		1	
	インターンシップ	実習	3	集中		2	
	健康運動実習	実習	3	集中		1	
	サービスラーニングⅣ	実習	4	集中		1	
	小計(7科目)		7	—	0	0	8
	ゼミナールⅠ(基礎)	演習	3	通年	4		
	ゼミナールⅡ(応用)	演習	4	通年	4		
自由科目	卒業研究	演習	4	通年		4	
	小計(3科目)		3	—	8	0	4
	個人スポーツ指導理論・実習Ⅰ(基礎)	実習	1	通年		2	
	チームスポーツ指導理論・実習Ⅰ(基礎)	実習	1	通年		2	
	個人スポーツ指導理論・実習Ⅱ(応用)	実習	2	通年		2	
	チームスポーツ指導理論・実習Ⅱ(応用)	実習	2	通年		2	
	個人スポーツ指導理論・実習Ⅲ(発展)	実習	3	通年		2	
	チームスポーツ指導理論・実習Ⅲ(発展)	実習	3	通年		2	
	個人スポーツ指導理論・実習Ⅳ(実践)	実習	4	通年		2	
	チームスポーツ指導理論・実習Ⅳ(実践)	実習	4	通年		2	
その他科目	小計(8科目)		8	—	0	0	16
	合計(124科目)		124	—	8	14	189
	他学部・他学科科目						
他大学科目							
合計(202科目)			202	—	32	14	317

<体育学部 健康科学科 教育課程> 【2022年度入学生対象】

科目区分	授業科目の名称	授業種別	配当		単位数		備考
			年次	学期	必修	選択	
言語・文化領域	英会話	演習	1	前期	2	2	※1
	日本の伝統文化	講義	1	前期	2	2	※2
	多文化共生のための異文化理解	講義	2	後期	2	2	※2
	英語Ⅰ	演習	1	後期	2	2	※2
	英語Ⅱ	演習	2	前期	2	2	※2
	英語Ⅲ	演習	3	前期	2	2	※2
	英語Ⅳ	演習	3	後期	2	2	※2
	小計(7科目)		7	—	2	12	
	コンピュータリテラシーⅠ	演習	1	前期	2	2	※1
	体育実技	実技	1	前期	1	1	※1
汎用的技能領域	IPUジェネリックスキルズⅠ(非認知能力)	講義	1	前期	2	2	※1
	TOEICⅠ	講義	1	前期	2	2	※2
	TOEICⅢ	講義	1	前期	2	2	※2
	コンピュータリテラシーⅡ	演習	1	後期	2	2	※1
	体育理論	講義	1	後期	1	1	※1
	IPUジェネリックスキルズⅡ(アカデミック)	講義	1	後期	2	2	※1
	TOEICⅡ	講義	1	後期	2	2	※2
	TOEICⅣ	講義	1	後期	2	2	※2
	コンピュータリテラシーⅢ	演習	2	前期	2	2	※2
	IPUジェネリックスキルズⅢ(シチズンシップ)	講義	2	後期	2	2	※2
教養科目	統計学	講義	3	前期	2	2	※2
	コンピュータリテラシーⅣ	演習	3	前期	2	2	※2
	小計(14科目)		14	—	10	16	
	表現活動による人間力養成Ⅰ	演習	1	通年	2	2	※2
	心理学	講義	1	前期	2	2	※2
	倫理学(宗教を含む)	講義	1	後期	2	2	※2
	表現活動による人間力養成Ⅱ	演習	2	通年	2	2	※2
	人権と教育	講義	2	前期	2	2	※2
	ライフコーチング	演習	2	後期	2	2	※2
	表現活動による人間力養成Ⅲ	演習	3	通年	2	2	※2
人間・表現領域	コミュニケーションの心理学	講義	3	前期	2	2	※2
	表現活動による人間力養成Ⅳ	演習	4	通年	2	2	※2
	人間と法	講義	4	前期	2	2	※2
	小計(10科目)		10	—	0	20	
	数学基礎	講義	2	前期	2	2	※2
	数学	講義	2	後期	2	2	※2
	自然科学基礎	講義	3	前期	2	2	※2
	食育論	講義	3	前期	2	2	※2
	生命科学基礎	講義	3	前期	2	2	※2
	小計(5科目)		5	—	0	10	
社会領域	政治・経済学	講義	1	後期	2	2	※2
	日本国憲法	講義	1	後期	2	2	※2
	経営学	講義	2	前期	2	2	※2
	労働法規	講義	3	前期	2	2	※2
	近現代史	講義	3	後期	2	2	※2
	地理・地政学	講義	3	後期	2	2	※2
	労働安全衛生法	講義	3	後期	2	2	※2
	小計(7科目)		7	—	0	14	
	基礎ゼミナールⅠ	演習	1	通年	2	2	※1
	フレッシュマンセミナー	講義	1	通年	2	2	※1
キャリア領域	ボランティア活動Ⅰ	演習	1	集中	2	2	※2
	基礎ゼミナールⅡ	演習	2	通年	2	2	※1
	キャリアディベロップメント	講義	2	通年	2	2	※1
	ボランティア活動Ⅱ	演習	2	集中	2	2	※2
	キャリアデザインⅠ	講義	3	前期	1	1	※1
	キャリアデザインⅡ	講義	3	後期	1	1	※1
	キャリアサポート	講義	4	前期	2	2	※2
	小計(9科目)		9	—	10	6	
	合計(52科目)		52	—	22	78	

<体育学部 健康科学科 教育課程> 【2022年度入学生対象】

科目区分	授業科目の名称	授業種別	配当		単位数		備考
			年次	学期	必修	選択	
体育学	体育原理	講義	1	前期		2	
	体育測定・評価	講義	1	前期		2	
	体育心理学	講義	1	前期		2	
	障害者スポーツ論	講義	1	後期		2	
	発育と発達	講義	1	後期		2	
	健康科学概論	講義	1	後期		2	
	体育社会学	講義	2	前期		2	
	トレーニング論 I (基礎)	講義	2	後期		2	
	スポーツ法学	講義	2	後期		2	
	スポーツバイオメカニクス	講義	2	後期		2	
	運動生理学	講義	2	後期		2	
	スポーツ栄養学	講義	2	後期		2	
	トレーニング論 II (応用)	講義	3	前期		2	
	スポーツバイオメカニクス II (応用)	講義	3	前期		2	
	スポーツ相談の実際	講義	3	後期		2	
小計(15科目)		15	—	—	0	30	
専門基礎科目	解剖学 I	講義	1	前期		2	※1
	生理学 I	講義	1	前期		2	※1
	運動学特論A	講義	1	前期		2	※1
	基礎柔道整復学 I (総論)	講義	1	前期		2	※1
	健康管理概論	講義	1	後期		2	
	運動学特論B	講義	1	後期		2	※1
	基礎柔道整復学 II (骨折)	講義	1	後期		2	※1
	病理学 I	講義	2	前期		2	※1
	基礎柔道整復学 III (脱臼)	講義	2	前期		2	※1
	柔道整復解剖生理演習 I	演習	2	前期		2	※1
	トレーニング演習	演習	2	後期		2	
	基礎柔道整復学 IV (捻挫)	講義	2	後期		2	※1
	柔道整復解剖生理演習 II	演習	2	後期		2	※2
	スポーツ装具論	講義	3	後期		2	
	公衆衛生学 I	講義	3	前期		2	※1
	解剖・生理学実習 I	実習	3	前期		1	※1
	柔道整復解剖生理演習 III	演習	3	前期		2	
	柔道整復解剖生理演習 IV	演習	3	後期		2	
	解剖・生理学実習 II	実習	3	後期		1	
	基礎柔道整復学 V (保存療法)	演習	3	集中		2	※1
小計(20科目)		20	—	—	0	38	
合計(35科目)		35	—	—	0	68	

<体育学部 健康科学科 教育課程> 【2022年度入学生対象】

科目区分	授業科目の名称	授業種別	配当		単位数		備考
			年次	学期	必修	選択	
健康運動分野	スポーツ健康実習	実習	2	前期		1	
	運動障害と予防および救急処置	講義	2	前期		2	
	スポーツ健康論	講義	2	後期		2	
	小計(3科目)		3	—	0	5	
スポーツ医学分野	検査・測定と評価Ⅰ	講義	2	前期		2	
	検査・測定と評価Ⅱ	講義	2	後期		2	
	救急処置	演習	2	集中		2	
	運動生理学Ⅱ(応用)	講義	3	前期		2	
	健康管理とスポーツ医学	講義	3	後期		2	
	労働衛生学	講義	3	後期		2	
	小計(6科目)		6	—	0	12	
コア科目	解剖学Ⅱ	講義	1	後期		2	※1
	生理学Ⅱ	講義	1	後期		2	※1
	関係法規	講義	1	後期		1	※1
	臨床柔道整復学Ⅰ(骨折Ⅰ)	講義	1	後期		2	※1
	外科学Ⅰ	講義	2	前期		2	※1
	臨床柔道整復学Ⅱ(骨折Ⅱ)	講義	2	前期		2	※1
	病理学Ⅱ	講義	2	後期		2	※1
	外科学Ⅱ	講義	2	後期		2	※1
	内科学Ⅰ	講義	2	後期		2	※1
	臨床柔道整復学Ⅲ(脱臼)	講義	2	後期		2	※1
	内科学Ⅱ	講義	3	前期		2	※1
	整形外科学Ⅰ	講義	3	前期		2	※1
	リハビリテーション医学Ⅰ	講義	3	前期		2	※1
	臨床柔道整復学Ⅳ(捻挫)	講義	3	前期		2	※1
	臨床柔道整復学Ⅴ(軟部組織Ⅰ)	講義	3	前期		2	※1
	公衆衛生学Ⅱ	講義	3	後期		2	※1
	整形外科学Ⅱ	講義	3	後期		2	※1
	リハビリテーション医学Ⅱ	講義	3	後期		2	※1
	臨床柔道整復学Ⅵ(軟部組織Ⅱ)	講義	3	後期		2	※1
	臨床柔道整復学Ⅶ(臨床応用)	実習	3	後期		2	※1
	柔道整復治療学	講義	4	前期		2	※1
	臨床柔道整復学演習Ⅰ	演習	4	集中		1	※1
	臨床柔道整復学演習Ⅱ	演習	4	集中		1	※1
	臨床柔道整復学演習Ⅲ	演習	4	集中		1	※1
	小計(24科目)		24	—	0	44	
	合計(33科目)		33	—	0	61	

<体育学部 健康科学科 教育課程> 【2022年度入学生対象】

科目区分	授業科目の名称	授業種別	配当		単位数		備考
			年次	学期	必修	選択	
コア科目	整復学実技Ⅰ(包帯法Ⅰ)	実技	1	前期		2	※1
	ダンスⅠ(基礎)	実技	1	後期		1	
	整復学実技Ⅱ(包帯法Ⅱ)	実技	1	後期		2	※1
	水泳Ⅰ(基礎)	実技	1	集中		1	
	ダンスⅡ(応用)	実技	2	前期		1	
	柔道Ⅰ(基礎)	実技	2	前期	1		※1
	整復学実技Ⅲ(上肢・固定法Ⅰ)	実技	2	前期		2	※1
	アスレティックトレーナー実習Ⅰ	実習	2	前期		1	※1
	柔道Ⅱ(応用)	実技	2	後期	1		※1
	整復学実技Ⅳ(上肢・固定法Ⅱ)	実技	2	後期		2	※1
	アスレティックトレーナー実習Ⅱ	実習	2	後期		1	※1
	整復学実技Ⅴ(下肢・固定法Ⅰ)	実技	3	前期		2	※1
	健康運動実習	実習	3	前・後		1	集中 ※1
	整復学実技Ⅵ(下肢・固定法Ⅱ)	実技	3	後期		2	※1
	整復学実技Ⅶ(総合)	実技	4	前期		2	※1
合計(15科目)		15	—	—	2	20	
インターナシップ	海外研修	実習	1・2・3	後期		1	集中
	整復臨床実習Ⅰ	実習	2	通年		1	※1
	整復臨床実習Ⅱ	実習	3	通年		1	※1
	整復臨床実習Ⅲ	実習	4	集中		1	※1
	整復臨床実習Ⅳ	実習	4	集中		1	※1
	小計(5科目)	5	—	—	0	5	
ゼミナール	ゼミナールⅠ(基礎)	演習	3	通年	4		※1
	課題研究Ⅰ	演習	3	通年		2	
	ゼミナールⅡ(応用)	演習	4	通年	4		
	卒業研究	演習	4	通年		4	
	課題研究Ⅱ	演習	4	通年		2	
	小計(5科目)	5	—	—	8	8	
合計(10科目)		10	—	—	8	13	
その他科目	他学部・他学科科目						
	他大学科目						
合計(145科目)		145	—	—	32	230	

※1 柔道整復師学校必修科目

※2 柔道整復師学校選択必修科目

<次世代教育学部 こども発達学科 教育課程> 【2022年度入学生対象】

科目区分	授業科目的名称	授業種別	配当		単位数			備考
			年次	学期	必修	選択必修	選択	
言語・文化領域	英会話	演習	1	前期	2		2	
	日本の伝統文化	講義	1	前期			2	
	多文化共生のための異文化理解	講義	2	後期			2	
	英語 I	演習	1	後期			2	
	英語 II	演習	2	前期			2	
	英語 III	演習	3	前期			2	
	英語 IV	演習	3	後期			2	
	小計(7科目)		7	—	2	0	12	
	コンピュータリテラシー I	演習	1	前期	2			
	体育実技	実技	1	前期	1			
汎用的技能領域	IPUジェネリックスキルズ I (非認知能力)	講義	1	前期	2			
	TOEIC I	講義	1	前期			2	
	TOEIC III	講義	1	前期			2	
	コンピュータリテラシー II	演習	1	後期	2			
	体育理論	講義	1	後期	1			
	IPUジェネリックスキルズ II (アカデミック)	講義	1	後期	2			
	TOEIC II	講義	1	後期			2	
	TOEIC IV	講義	1	後期			2	
	コンピュータリテラシー III	演習	2	前期			2	
	IPUジェネリックスキルズ III (シチズンシップ)	講義	2	後期			2	
教養科目	統計学	講義	3	前期			2	
	コンピュータリテラシー IV	演習	3	前期			2	
	小計(14科目)		14	—	—	10	0	16
	表現活動による人間力養成 I	演習	1	通年			2	
	心理学	講義	1	前期			2	
	倫理学(宗教を含む)	講義	1	後期			2	
	表現活動による人間力養成 II	演習	2	通年			2	
	人権と教育	講義	2	前期			2	
	ライフコーチング	演習	2	後期			2	
	表現活動による人間力養成 III	演習	3	通年			2	
人間・表現領域	コミュニケーションの心理学	講義	3	前期			2	
	表現活動による人間力養成 IV	演習	4	通年			2	
	人間と法	講義	4	前期			2	
	小計(10科目)		10	—	—	0	0	20
	数学基礎	講義	2	前期			2	
数理領域	数学	講義	2	後期			2	
	自然科学基礎	講義	3	前期			2	
	食育論	講義	3	前期			2	
	生命科学基礎	講義	3	前期			2	
	小計(5科目)		5	—	—	0	0	10
社会領域	政治・経済学	講義	1	後期			2	
	日本国憲法	講義	1	後期			2	
	経営学	講義	2	前期			2	
	労働法規	講義	3	前期			2	
	近現代史	講義	3	後期			2	
	地理・地政学	講義	3	後期			2	
	労働安全衛生法	講義	3	後期			2	
キャリア領域	小計(7科目)		7	—	—	0	0	14
	基礎ゼミナール I	演習	1	通年	2			
	フレッシュマンセミナー	講義	1	通年	2			
	ボランティア活動 I	演習	1	集中			2	
	基礎ゼミナール II	演習	2	通年	2			
	キャリアディベロップメント	講義	2	通年	2			
	ボランティア活動 II	演習	2	集中			2	
	キャリアデザイン I	講義	3	前期	1			
	キャリアデザイン II	講義	3	後期	1			
	キャリアサポート	講義	4	前期			2	
	小計(9科目)		9	—	—	10	0	6
	合計(52科目)		52	—	—	22	0	78

<次世代教育学部 こども発達学科 教育課程> 【2022年度入学生対象】

科目区分	授業科目の名称	授業種別	配当		単位数			備考
			年次	学期	必修	選択必修	選択	
教次 育世 学代	次世代教育学	講義	1	前期	2			6単位 選択必修
	小計(1科目)	1	—	—	2	0	0	
	教育の思想と原理	講義	1	前期	2			
	教職入門	講義	1	後期	2			
	保育原理	講義	1	前期	2			
	保育者論	講義	1	後期	2			
	社会的養護Ⅰ	講義	2	前期	2			
	社会的養護Ⅱ	演習	2	後期				
	教育の方法及び技術(情報通信技術の活用含む)	講義	3	前期	2			
	小計(7科目)	7	—	—	12	0	2	
専門基礎科目	器楽演習Ⅰ	演習	1	後期			2	6単位 選択必修
	図画工作Ⅰ	演習	1	後期			1	
	器楽演習Ⅱ	演習	2	前期			2	
	図画工作Ⅱ	演習	2	前期			1	
	器楽演習Ⅲ	演習	3	前期			2	
	器楽演習Ⅳ	演習	4	前期			2	
	小計(6科目)	6	—	—	0	0	10	
	幼児と健康	講義	1	前期		2		
	幼児と言葉	講義	1	後期		2		
	幼児と人間関係	講義	1	後期		2		
領域・教科等に 関する	幼児と環境	講義	1	前期		2		6単位 選択必修
	幼児と表現	講義	1	前期		2		
	小計(5科目)	5	—	—	0	10	0	
	合計(19科目)	19	—	—	14	10	12	

<次世代教育学部 こども発達学科 教育課程> 【2022年度入学生対象】

科目区分	授業科目の名称	授業種別	配当		単位数		備考
			年次	学期	必修	選択必修	
子どもの発達に関する領域	教育心理学	講義	1	前期	2		
	子ども家庭支援の心理学	講義	2	前期	2		
	子どもの理解と援助	演習	2	後期	2		
	発達心理学	講義	2	後期	2		
	家族心理学	講義	2	後期		2	
	子育て論	講義	2	後期		2	
	子どものこころ	講義	3	集中		2	
	幼児心理学Ⅰ	演習	3	前期		1	
	幼児心理学Ⅱ	演習	3	後期		1	
	教育社会学	講義	3	後期	2		
	特別支援教育論	講義	3	後期	2		
	幼児心理学Ⅲ	演習	4	前期		1	
小計(12科目)		12	—	—	12	0	9
コア科目 保育・幼児教育に関する領域	社会福祉学	講義	1	前期		2	
	子どもの保健	講義	1	前期		2	
	子ども家庭福祉	講義	1	後期		2	
	保育内容総論	演習	2	前期		2	
	障害児保育	演習	2	前期		2	
	保育内容「環境」指導法	演習	2	前期	2		
	保育内容「身体表現」指導法	演習	2	前期	2		
	保育内容「人間関係」指導法	演習	2	後期	2		
	保育内容「言葉」指導法	演習	2	後期	2		
	保育内容「健康」指導法	演習	2	後期	2		
	保育内容「造形表現」指導法	演習	2	後期	2		
	保育内容「音楽表現」指導法	演習	2	後期	2		
	乳児保育Ⅰ	講義	2	後期	2		
	子ども子育て教育相談	演習	3	前期		2	
	子どもの食と栄養	演習	3	前期		2	
	子ども家庭支援論	講義	3	前期		2	
	乳児保育Ⅱ	演習	3	前期		2	
	教育課程論	講義	3	後期	2		
	子どもとマルチメディア	演習	3	後期		2	
小計(19科目)		19	—	—	20	0	18

<次世代教育学部 こども発達学科 教育課程> 【2022年度入学生対象】

科目区分	授業科目の名称	授業種別	配当		単位数		備考	
			年次	学期	必修	選択必修		
コア科目	ニュージーランド保育	演習	1	前期		1		
	保育マネジメント演習Ⅰ	演習	2	前期		1		
	保育実習指導ⅠB(施設)	演習	2	前期		1		
	保育実習指導ⅠA(保育所)	演習	2	後期		1		
	保育マネジメント演習Ⅱ	演習	2	後期		1		
	保育実習ⅠA(保育所)	実習	2	集中		2		
	保育実習ⅠB(施設)	実習	2	集中		2		
	学校支援ボランティア	実習	2・3	集中		1		
	幼児英語指導法Ⅰ	演習	3	前期		1		
	幼児体育指導法Ⅰ	演習	3	前期		1		
	幼児英語指導法Ⅱ	演習	3	後期		1		
	幼児体育指導法Ⅱ	演習	3	後期		1		
	保育マネジメント演習Ⅲ	演習	3	後期		1		
	保育実習指導Ⅱ(保育所)	演習	3	集中		1		
	保育実習Ⅱ(保育所)	実習	3	集中		2		
	保育実習指導Ⅲ(施設)	演習	3	集中		1		
	保育実習Ⅲ(施設)	実習	3	集中		2		
	教育実習事前・事後指導(幼稚園)	実習	3・4	通年		1		
	教育実習Ⅰ(幼稚園)	実習	3・4	集中		2		
	教育実習Ⅱ(幼稚園)	実習	3・4	集中		2		
	保育マネジメント演習Ⅳ	演習	4	前期		1		
	幼児英語指導法Ⅲ	演習	4	前期		1		
	幼児体育指導法Ⅲ	演習	4	前期		1		
	教職実践演習	演習	4	後期		2		
	小計(24科目)		24	—	—	0	0	31
シンポジウム	海外研修	実習	1・2・3	集中		1		
	インターンシップ	実習	3	集中		2		
	小計(2科目)		2	—	—	0	0	3
ゼミナール	ゼミナールⅠ(基礎)	演習	3	通年	4			
	ゼミナールⅡ(応用)	演習	4	通年	4			
	卒業研究	演習	4	通年			4	
	小計(3科目)		3	—	—	8	0	4
合計(60科目)			60	—	—	40	0	65
その他科目	他学部・他学科科目							
	他大学科目							
	合計(131科目)		131	—	—	76	10	155

<次世代教育学部 教育経営学科 [小学校教育専攻] 教育課程> 【2022年度入学生対象】

科目区分	授業科目的名称	授業種別	配当		単位数		備考
			年次	学期	必修	選択	
言語・文化領域	英会話	演習	1	前期	2		
	日本の伝統文化	講義	1	前期	2		
	多文化共生のための異文化理解	講義	2	後期	2		
	英語Ⅰ	演習	1	後期	2		
	英語Ⅱ	演習	2	前期	2		
	英語Ⅲ	演習	3	前期	2		
	英語Ⅳ	演習	3	後期	2		
	小計(7科目)		7	—	2	12	
	コンピュータリテラシーⅠ	演習	1	前期	2		
	体育実技	実技	1	前期	1		
汎用的技能領域	IPUジェネリックスキルズⅠ(非認知能力)	講義	1	前期	2		
	TOEICⅠ	講義	1	前期	2		
	TOEICⅢ	講義	1	前期	2		
	コンピュータリテラシーⅡ	演習	1	後期	2		
	体育理論	講義	1	後期	1		
	IPUジェネリックスキルズⅡ(アカデミック)	講義	1	後期	2		
	TOEICⅡ	講義	1	後期	2		
	TOEICⅣ	講義	1	後期	2		
	コンピュータリテラシーⅢ	演習	2	前期	2		
	IPUジェネリックスキルズⅢ(シチズンシップ)	講義	2	後期	2		
教養科目	統計学	講義	3	前期	2		
	コンピュータリテラシーⅣ	演習	3	前期	2		
	小計(14科目)		14	—	10	16	
	表現活動による人間力養成Ⅰ	演習	1	通年	2		
	心理学	講義	1	前期	2		
	倫理学(宗教を含む)	講義	1	後期	2		
	表現活動による人間力養成Ⅱ	演習	2	通年	2		
	人権と教育	講義	2	前期	2		
	ライフコーチング	演習	2	後期	2		
	表現活動による人間力養成Ⅲ	演習	3	通年	2		
人間・表現領域	コミュニケーションの心理学	講義	3	前期	2		
	表現活動による人間力養成Ⅳ	演習	4	通年	2		
	人間と法	講義	4	前期	2		
	小計(10科目)		10	—	0	20	
	数学基礎	講義	2	前期	2		
数理領域	数学	講義	2	後期	2		
	自然科学基礎	講義	3	前期	2		
	食育論	講義	3	前期	2		
	生命科学基礎	講義	3	前期	2		
	小計(5科目)		5	—	0	10	
社会領域	政治・経済学	講義	1	後期	2		
	日本国憲法	講義	1	後期	2		
	経営学	講義	2	前期	2		
	労働法規	講義	3	前期	2		
	近現代史	講義	3	後期	2		
	地理・地政学	講義	3	後期	2		
	労働安全衛生法	講義	3	後期	2		
キャリア領域	小計(7科目)		7	—	0	14	
	基礎ゼミナールⅠ	演習	1	通年	2		
	フレッシュマンセミナー	講義	1	通年	2		
	ボランティア活動Ⅰ	演習	1	集中	2		
	基礎ゼミナールⅡ	演習	2	通年	2		
	キャリアディベロップメント	講義	2	通年	2		
	ボランティア活動Ⅱ	演習	2	集中	2		
	キャリアデザインⅠ	講義	3	前期	1		
	キャリアデザインⅡ	講義	3	後期	1		
	キャリアサポート	講義	4	前期	2		
合計(9科目)			9	—	10	6	
	合計(52科目)		52	—	22	78	

<次世代教育学部 教育経営学科 [小学校教育専攻] 教育課程> 【2022年度入学生対象】

科目区分	授業科目の名称	授業種別	配当		単位数		備考
			年次	学期	必修	選択	
教次 教育世 学代	次世代教育学	講義	1	通年	2		
	小計(1科目)		1	—	2	0	
	教育の思想と原理	講義	1	前期	2		
	教職入門	講義	1	後期		2	
	器楽演習 I	演習	2	前期		2	
	総合的な学習の時間の指導法	講義	2	後期		2	
	特別活動の指導法	講義	2	後期		2	
	生徒指導・進路指導論	講義	2	後期		2	
	器楽演習 II	演習	2	後期		2	
	教育課程論	講義	3	前期		2	
	道徳教育の理論及び指導法	講義	3	前期		2	
教育・指 導に關する領域	教育の方法及び技術(情報通信技術の活用含む)	講義	3	前期		2	
	特別支援教育論	講義	3	後期		2	
	小計(11科目)		11	—	2	20	
	言葉の理解	講義	1	前期		2	
	数の理解	講義	1	前期		2	
	英語の理解	講義	1	前期		2	
	自然の理解	講義	1	後期		2	
	社会の理解	講義	1	後期		2	
	生活の理解	演習	2	前期		2	
	音楽の理解	演習	2	前期		2	
	美術の理解	演習	2	前期		2	
専門基礎科目	運動・健康の理解	演習	2	前期		2	
	衣・食・住の理解	講義	2	後期		2	
	小計(10科目)		10	—	0	20	
	日本語教育概論 I	講義	2	後期		2	
	日本語学 I	講義	2	後期		2	
	日本語教育概論 II	講義	3	前期		2	
	日本語学 II	講義	3	前期		2	
	言語学	講義	3	前期		2	
	社会言語学	講義	3	前期		2	
	小計(6科目)		6	—	0	12	
	合計(28科目)		28	—	4	52	

<次世代教育学部 教育経営学科 [小学校教育専攻] 教育課程> 【2022年度入学生対象】

科目区分	授業科目の名称	授業種別	配当		単位数		備考
			年次	学期	必修	選択	
の心理領域社会	教育心理学	講義	1	前期	2	2	
	発達心理学	講義	2	前期			
	小計(2科目)		2	—	2	2	
教育する経営領域・学級経営に	教育評価	講義	2	後期		2	
	教育相談(初等)	講義	2	前期		2	
	教育社会学	講義	3	後期		2	
	学校経営と学校図書館	講義	4	前期		2	
	学校図書館メディアの構成	講義	4	前期		2	
	読書と豊かな人間性	講義	4	前期		2	
	学習指導と学校図書館	講義	4	後期		2	
	情報メディアの活用	講義	4	後期		2	
	小計(8科目)		8	—	—	0	16
教育実践の領域	教育実践学 I (青年教師塾)	演習	1	後期集中		2	
	国語科教育法	講義	2	前期		2	
	算数科教育法	講義	2	前期		2	
	教育実践学 II (基礎) (青年教師塾)	演習	2	前期集中		2	
	社会科教育法	講義	2	後期		2	
	理科教育法	講義	2	後期		2	
	理科実験の指導法 I (理科教師塾)	演習	2	後期		2	
	教育実践学 II (応用) (青年教師塾)	演習	2	後期集中		2	
	生活科教育法	講義	3	前期		2	
	家庭科教育法	講義	3	前期		2	
	体育科教育法	講義	3	前期		2	
	理科実験の指導法 II (理科教師塾)	演習	3	前期		2	
	音楽科教育法	講義	3	後期		2	
	図画工作科教育法	講義	3	後期		2	
	小学校英語科教育法	講義	3	後期		2	
	体育実技の指導法	演習	3	集中		2	
	小計(16科目)		16	—	—	0	32
実践日本語の領域教育	日本語教授法 I	講義	3	後期		2	日本語教師の資格科目
	日本語評価法	講義	3	後期		2	
	日本語教授法 II	講義	4	前期		2	
	小計(3科目)		3	—	—	0	
その他の教育経営領域	音楽表現指導理論・実習 I (基礎)	実習	1	通年集中		2	
	音楽表現指導理論・実習 II (応用)	実習	2	通年集中		2	
	音楽表現指導理論・実習 III (発展)	実習	3	通年集中		2	
	音楽表現指導理論・実習 IV (実践)	実習	4	通年集中		2	
	小計(4科目)		4	—	—	0	8

<次世代教育学部 教育経営学科 [小学校教育専攻] 教育課程> 【2022年度入学生対象】

科目区分	授業科目の名称	授業種別	配当		単位数		備考
			年次	学期	必修	選択	
教育実践 コア科目	キャンプ実習	実習	2	集中		1	
	学校支援ボランティア	実習	2・3・4	集中		1	
	介護等体験実習	実習	2・3・4	集中		1	
	教育実習事前・事後指導(小学校)	実習	3・4	通年		1	
	教育実習Ⅰ(小学校)	実習	3・4	集中		2	
	教育実習Ⅱ(小学校)	実習	3・4	集中		2	
	日本語教育演習Ⅰ	演習	4	前期		2	日本語教師の資格科目
	日本語教育実習Ⅰ	実習	4	前期		1	日本語教師の資格科目
	日本語教育演習Ⅱ	演習	4	後期		2	日本語教師の資格科目
	日本語教育実習Ⅱ	実習	4	後期		1	日本語教師の資格科目
	教職実践演習	演習	4	後期		2	日本語教師の資格科目
小計(11科目)		11	—	—	0	16	
インターンシップ	国際交流実習Ⅰ(基礎)	実習	1・2・3	前期		1	
	国際交流実習Ⅱ(応用)	実習	1・2・3	後期集中		1	
	海外研修	実習	1・2・3	集中		1	
	インターンシップ	実習	3	集中		2	
小計(4科目)		4	—	—	0	5	
ゼミナール	ゼミナーラⅠ(基礎)	演習	3	通年	4		
	ゼミナーラⅡ(応用)	演習	4	通年	4		
	卒業研究	演習	4	通年集中	4		
	小計(3科目)	3	—	—	12	0	
合計(47科目)		47	—	—	14	77	
その他科目	他学部・他学科科目						
	他大学科目						
合計(127科目)		127	—	—	40	207	

<次世代教育学部 教育経営学科 [中高英語教育専攻] 教育課程> 【2022年度入学生対象】

科目区分	授業科目的名称	授業種別	配当		単位数		備考
			年次	学期	必修	選択	
言語・文化領域	英会話	演習	1	前期	2		
	日本の伝統文化	講義	1	前期	2		
	多文化共生のための異文化理解	講義	2	後期	2		
	英語 I	演習	1	後期	2		
	英語 II	演習	2	前期	2		
	英語 III	演習	3	前期	2		
	英語 IV	演習	3	後期	2		
	小計(7科目)		7	—	2	12	
	コンピュータリテラシー I	演習	1	前期	2		
	体育実技	実技	1	前期	1		
	IPUジェネリックスキルズ I (非認知能力)	講義	1	前期	2		
	TOEIC I	講義	1	前期	2		
	TOEIC III	講義	1	前期	2		
汎用的技能領域	コンピュータリテラシー II	演習	1	後期	2		
	体育理論	講義	1	後期	1		
	IPUジェネリックスキルズ II (アカデミック)	講義	1	後期	2		
	TOEIC II	講義	1	後期	2		
	TOEIC IV	講義	1	後期	2		
	コンピュータリテラシー III	演習	2	前期	2		
	IPUジェネリックスキルズ III (シチズンシップ)	講義	2	後期	2		
	統計学	講義	3	前期	2		
	コンピュータリテラシー IV	演習	3	前期	2		
	小計(14科目)		14	—	10	16	
教養科目	表現活動による人間力養成 I	演習	1	通年	2		
	心理学	講義	1	前期	2		
	倫理学(宗教を含む)	講義	1	後期	2		
	表現活動による人間力養成 II	演習	2	通年	2		
	人権と教育	講義	2	前期	2		
	ライフコーチング	演習	2	後期	2		
	表現活動による人間力養成 III	演習	3	通年	2		
	コミュニケーションの心理学	講義	3	前期	2		
	表現活動による人間力養成 IV	演習	4	通年	2		
	人間と法	講義	4	前期	2		
数理領域	小計(10科目)		10	—	0	20	
	数学基礎	講義	2	前期	2		
	数学	講義	2	後期	2		
	自然科学基礎	講義	3	前期	2		
	食育論	講義	3	前期	2		
	生命科学基礎	講義	3	前期	2		
社会領域	小計(5科目)		5	—	0	10	
	政治・経済学	講義	1	後期	2		
	日本国憲法	講義	1	後期	2		
	経営学	講義	2	前期	2		
	労働法規	講義	3	前期	2		
	近現代史	講義	3	後期	2		
	地理・地政学	講義	3	後期	2		
キャリア領域	労働安全衛生法	講義	3	後期	2		
	小計(7科目)		7	—	0	14	
	基礎ゼミナール I	演習	1	通年	2		
	フレッシュマンセミナー	講義	1	通年	2		
	ボランティア活動 I	演習	1	集中	2		
	基礎ゼミナール II	演習	2	通年	2		
	キャリアディベロップメント	講義	2	通年	2		
	ボランティア活動 II	演習	2	集中	2		
	キャリアデザイン I	講義	3	前期	1		
	キャリアデザイン II	講義	3	後期	1		
	キャリアサポート	講義	4	前期	2		
	小計(9科目)		9	—	10	6	
	合計(52科目)		52	—	22	78	

<次世代教育学部 教育経営学科 [中高英語教育専攻] 教育課程> 【2022年度入学生対象】

科目区分	授業科目の名称	授業種別	配当		単位数		備考
			年次	学期	必修	選択	
教次 教育世 学代	次世代教育学	講義	1	通年	2		
	小計(1科目)		1	—	—	0	
	教育の思想と原理	講義	1	前期	2		
	教職入門	講義	1	後期		2	
	総合的な学習の時間の指導法	講義	2	後期		2	
	特別活動の指導法	講義	2	後期		2	
	生徒指導・進路指導論	講義	2	後期		2	
	道徳教育の理論及び指導法	講義	3	前期		2	
	教育の方法及び技術(情報通信技術の活用含む)	講義	3	前期		2	
	教育課程論	講義	3	後期		2	
	特別支援教育論	講義	3	後期		2	
	小計(9科目)		9	—	—	2	16
専門基礎科目 英語に 関する 領域	英語文学	講義	1	前期		2	
	異文化コミュニケーション論	講義	1	前期		2	
	実践英文法(基礎)	講義	1	前期		2	
	英語文学史	講義	1	後期		2	
	実践英文法(応用)	講義	1	後期		2	
	リーディング・スキル(基礎)	講義	1	後期		2	
	時事英語	演習	1	後期		2	
	英語学概論	講義	2	前期		2	
	比較文化論	演習	2	前期		2	
	英語文法	講義	2	後期		2	
	リーディング・スキル(応用)	講義	2	後期		2	
	スピーキング・スキル	講義	3	前期		2	
	上級英語文法	講義	3	前期		2	
	ライティング・スキル	講義	3	後期		2	
	リーディング・スキル(実践)	講義	3	後期		2	
	上級オーラル・コミュニケーション	演習	3	後期		2	
	小計(16科目)		16	—	—	0	32
日本語 教育に 関する 領域	日本語教育概論 I	講義	2	後期		2	日本語教師の資格科目
	日本語学 I	講義	2	後期		2	日本語教師の資格科目
	日本語教育概論 II	講義	3	前期		2	日本語教師の資格科目
	日本語学 II	講義	3	前期		2	日本語教師の資格科目
	言語学	講義	3	前期		2	日本語教師の資格科目
	社会言語学	講義	3	前期		2	日本語教師の資格科目
	小計(6科目)		6	—	—	0	12
合計(32科目)			32	—	—	4	60

<次世代教育学部 教育経営学科 [中高英語教育専攻] 教育課程> 【2022年度入学生対象】

科目区分	授業科目の名称	授業種別	配当		単位数		備考
			年次	学期	必修	選択	
の心理領域社会 教育する経営領域学級経営に 関する経営領域学級経営に コア科目	教育心理学	講義	1	前期	2	2	学校図書館司書教諭免許の資格科目 学校図書館司書教諭免許の資格科目 学校図書館司書教諭免許の資格科目 学校図書館司書教諭免許の資格科目 学校図書館司書教諭免許の資格科目 学校図書館司書教諭免許の資格科目 学校図書館司書教諭免許の資格科目 学校図書館司書教諭免許の資格科目 日本語教師の資格科目 日本語教師の資格科目 日本語教師の資格科目
	発達心理学	講義	2	前期	2	2	
	小計(2科目)		2	—	2	2	
	教育評価	講義	2	後期	2	2	
	教育相談(中等)	講義	2	後期	2	2	
	教育社会学	講義	3	後期	2	2	
	学校経営と学校図書館	講義	4	前期	2	2	
	学校図書館メディアの構成	講義	4	前期	2	2	
	読書と豊かな人間性	講義	4	前期	2	2	
	学習指導と学校図書館	講義	4	後期	2	2	
英語教育実践の領域	情報メディアの活用	講義	4	後期	2	2	日本語教師の資格科目 日本語教師の資格科目 日本語教師の資格科目
	小計(8科目)		8	—	0	16	
	英語科教育法 I (基礎)	講義	2	前期	2	2	
	英語科教育法 II (応用)	講義	2	後期	2	2	
	映画とテレビの英語	講義	2	後期	2	2	
	英語のリズムとイントネーション	講義	2	後期	2	2	
	英語科教育法 III (発展)	講義	3	前期	2	2	
実践本語の領域	英語科教育法 IV (実践)	講義	3	後期	2	2	日本語教師の資格科目 日本語教師の資格科目 日本語教師の資格科目
	英語教授法特論	講義	3	後期	2	2	
	小計(7科目)		7	—	0	14	
	日本語教授法 I	講義	3	後期	2	2	
その他の領域	日本語評価法	講義	3	後期	2	2	日本語教師の資格科目 日本語教師の資格科目 日本語教師の資格科目
	日本語教授法 II	講義	4	前期	2	2	
	小計(3科目)		3	—	0	6	
音楽表現指導理論・実習	音楽表現指導理論・実習 I (基礎)	実習	1	通年集中	2	2	日本語教師の資格科目 日本語教師の資格科目 日本語教師の資格科目
	音楽表現指導理論・実習 II (応用)	実習	2	通年集中	2	2	
	音楽表現指導理論・実習 III (発展)	実習	3	通年集中	2	2	
	音楽表現指導理論・実習 IV (実践)	実習	4	通年集中	2	2	
	小計(4科目)		4	—	0	8	

<次世代教育学部 教育経営学科 [中高英語教育専攻] 教育課程> 【2022年度入学生対象】

科目区分	授業科目の名称	授業種別	配当		単位数		備考
			年次	学期	必修	選択	
コア科目	キャンプ実習	実習	2	集中		1	日本語教師の資格科目 日本語教師の資格科目 日本語教師の資格科目 日本語教師の資格科目
	学校支援ボランティア	実習	2・3・4	集中		1	
	介護等体験実習	実習	2・3・4	集中		1	
	教育実習事前・事後指導(英語)	実習	3・4	通年		1	
	教育実習 I (中学校・高等学校)	実習	3・4	集中	2		
	教育実習 II (中学校)	実習	3・4	集中	2		
	日本語教育演習 I	演習	4	前期	2		
	日本語教育実習 I	実習	4	前期	1		
	日本語教育演習 II	演習	4	後期	2		
	日本語教育実習 II	実習	4	後期	1		
	教職実践演習	演習	4	後期	2		
小計(11科目)		11	—	—	0	16	
インターナシップ	国際交流実習 I (基礎)	実習	1・2・3	前期		1	
	国際交流実習 II (応用)	実習	1・2・3	後期集中		1	
	海外研修	実習	1・2・3	集中		1	
	インターナシップ	実習	3	集中		2	
小計(4科目)		4	—	—	0	5	
ゼミナール	ゼミナール I (基礎)	演習	3	通年	4		
	ゼミナール II (応用)	演習	4	通年	4		
	卒業研究	演習	4	通年集中	4		
小計(3科目)		3	—	—	12	0	
合計(38科目)		38	—	—	14	59	
その他科目	他学部・他学科科目						
	他大学科目						
合計(122科目)		122	—	—	40	197	

<経済経営学部 現代経営学科 教育課程> 【2022年度入学生対象】

科目区分	授業科目的名称	授業種別	配当		単位数		備考
			年次	学期	必修	選択	
言語・文化領域	英会話	演習	1	前期	2		
	日本の伝統文化	講義	1	前期	2		
	多文化共生のための異文化理解	講義	2	後期	2		
	英語Ⅰ	演習	1	後期	2		
	英語Ⅱ	演習	2	前期	2		
	英語Ⅲ	演習	3	前期	2		
	英語Ⅳ	演習	3	後期	2		
	小計(7科目)		7	—	2	12	
	コンピュータリテラシーⅠ	演習	1	前期	2		
	体育実技	実技	1	前期	1		
	IPUジェネリックスキルズⅠ(非認知能力)	講義	1	前期	2		
	TOEICⅠ	講義	1	前期	2		
	TOEICⅢ	講義	1	前期	2		
	コンピュータリテラシーⅡ	演習	1	後期	2		
汎用的技能領域	体育理論	講義	1	後期	1		
	IPUジェネリックスキルズⅡ(アカデミック)	講義	1	後期	2		
	TOEICⅡ	講義	1	後期	2		
	TOEICⅣ	講義	1	後期	2		
	コンピュータリテラシーⅢ	演習	2	前期	2		
	IPUジェネリックスキルズⅢ(シチズンシップ)	講義	2	後期	2		
	統計学	講義	3	前期	2		
	コンピュータリテラシーⅣ	演習	3	前期	2		
	小計(14科目)		14	—	10	16	
教養科目	表現活動による人間力養成Ⅰ	演習	1	通年	2		
	心理学	講義	1	前期	2		
	倫理学(宗教を含む)	講義	1	後期	2		
	表現活動による人間力養成Ⅱ	演習	2	通年	2		
	人権と教育	講義	2	前期	2		
	ライフコーチング	演習	2	後期	2		
	表現活動による人間力養成Ⅲ	演習	3	通年	2		
	コミュニケーションの心理学	講義	3	前期	2		
	表現活動による人間力養成Ⅳ	演習	4	通年	2		
	人間と法	講義	4	前期	2		
人間・表現領域	小計(10科目)		10	—	0	20	
数理領域	数学基礎	講義	2	前期	2		
	数学	講義	2	後期	2		
	自然科学基礎	講義	3	前期	2		
	食育論	講義	3	前期	2		
社会領域	生命科学基礎	講義	3	前期	2		
	小計(5科目)		5	—	0	10	
社会領域	政治・経済学	講義	1	後期	2		
	日本国憲法	講義	1	後期	2		
	経営学	講義	2	前期	2		
	労働法規	講義	3	前期	2		
	近現代史	講義	3	後期	2		
	地理・地政学	講義	3	後期	2		
	労働安全衛生法	講義	3	後期	2		
キャリア領域	小計(7科目)		7	—	0	14	
キャリア領域	基礎ゼミナールⅠ	演習	1	通年	2		
	フレッシュマンセミナー	講義	1	通年	2		
	ボランティア活動Ⅰ	演習	1	集中	2		
	基礎ゼミナールⅡ	演習	2	通年	2		
	キャリアディベロップメント	講義	2	通年	2		
	ボランティア活動Ⅱ	演習	2	集中	2		
	キャリアデザインⅠ	講義	3	前期	1		
キャリア領域	キャリアデザインⅡ	講義	3	後期	1		
	キャリアサポート	講義	4	前期	2		
キャリア領域	小計(9科目)		9	—	10	6	
	合計(52科目)		52	—	22	78	

<経済経営学部 現代経営学科 教育課程> 【2022年度入学生対象】

科目区分	授業科目の名称	授業種別	配当		単位数		備考
			年次	学期	必修	選択	
専門基礎科目 経済経営領域	社会調査法	講義	1	前期		2	
	公共経営論	講義	1	前期		2	
	経営学概論	講義	1	前期	2		
	経済学概論	講義	1	前期	2		
	マーケティング総論	講義	1	前期		2	
	都市計画論	講義	1	前期		2	
	プロジェクト・ゼロ	講義	1	前期		2	
	経済数学入門 I	講義	1	前期		2	
	簿記入門	講義	1・2	前期		2	
	現代経営論	講義	1	後期		2	
	マネジメント論	講義	1	後期		2	
	統計学基礎	講義	1	後期		2	
	経済数学入門 II	講義	1	後期		2	
	地域政策論	講義	1	後期		2	
	ミクロ経済学	講義	1	後期	2		
	マクロ経済学	講義	1	後期	2		
	SDGs入門	講義	1	後期		2	
	ビジネスプレゼンテーション	演習	2	前期		2	
	現代ビジネス概論	講義	2	前期		2	
	国際関係論	講義	2	前期		2	
	データサイエンス入門	講義	2	前期		2	
	現代企業論	講義	2	後期		2	
	日本経済論	講義	2	後期		2	
	世界経済論	講義	2	後期		2	
	ビジネスデータ分析	講義	2	後期		2	
	ビジネスマナー	講義	2	後期		2	
国際コミュニケーション領域	スポーツ産業論	講義	2	後期		2	
	プロジェクト研究	演習	2	後期		2	
	公務員と法	講義	3	集中		2	
	公務員と法 II	講義	3	後期		2	
	小計(30科目)	30	—	—	8	52	
	日本語表現 I	講義	1	前期		2	IPUNZ単位読替科目
	総合英語 I(基礎)	講義	1	前期		2	IPUNZ単位読替科目
	英語表現 I(基礎)	演習	1	前期		2	IPUNZ単位読替科目
	English Skills I	演習	1	前期		2	IPUNZ単位読替科目
	TOEIC入門 I(基礎)	演習	1	前期		2	IPUNZ単位読替科目
	日本語表現 II	講義	1	後期		2	IPUNZ単位読替科目
	総合英語 II(応用)	講義	1	後期		2	IPUNZ単位読替科目
	英語表現 II(応用)	演習	1	後期		2	IPUNZ単位読替科目
	English Skills II	演習	1	後期		2	IPUNZ単位読替科目
	TOEIC入門 II(応用)	演習	1	後期		2	IPUNZ単位読替科目
	日本ビジネス事情	講義	1	後期		2	IPUNZ単位読替科目
	総合日本語 I(基礎)	講義	2	前期		2	IPUNZ単位読替科目
	日本語教育概論 II	講義	2	前期		2	IPUNZ単位読替科目
	日本語学 II	講義	2	前期		2	IPUNZ単位読替科目
	言語学	講義	2	前期		2	IPUNZ単位読替科目
	社会言語学	講義	2	前期		2	IPUNZ単位読替科目
	日本語教育概論 I	講義	2	後期		2	IPUNZ単位読替科目
	日本語学 I	講義	2	後期		2	IPUNZ単位読替科目
	文章作成	講義	2	後期		2	IPUNZ単位読替科目
	総合日本語 II(応用)	講義	2	後期		2	IPUNZ単位読替科目
	小計(20科目)	20	—	—	0	40	
	合計(50科目)	50	—	—	8	92	

<経済経営学部 現代経営学科 教育課程> 【2022年度入学生対象】

科目区分	授業科目の名称	授業種別	配当		単位数		備考
			年次	学期	必修	選択	
ヨア 科目	経営管理論	講義	2	前期		2	
	経営戦略論	講義	2	前期		2	
	企業経営実践論Ⅰ	講義	2・3	前期		2	
	経営組織論	講義	2	後期		2	
	ビジネス特別講義Ⅰ	講義	2・3	後期		2	
	ビジネス特別講義Ⅱ	講義	2	後期		2	
	中小企業論	講義	3	前期		2	
	人的資源論	講義	3	前期		2	
	国際経営論	講義	3	前期		2	
	イノベーション論	講義	3	前期		2	
	企業経営実践論Ⅱ	講義	3・4	前期		2	
	ベンチャー企業論	講義	3	後期		2	
	経営情報論	講義	3	後期		2	
	多文化環境論	講義	1	前期		2	
	異文化コミュニケーション	講義	1	後期		2	
	アジア太平洋のビジネス環境	講義	1	後期		2	
	応用マクロ経済学	講義	2	前期		2	
	応用ミクロ経済学	講義	2	前期		2	
	国際経済学	講義	2	後期		2	
	財政学	講義	2	後期		2	
	公共経済学	講義	2	後期		2	
	経済政策論	講義	3	前期		2	
	ビジネス英書講読	演習	3	前期		2	
	交通経済論	講義	3	後期		2	
	アジア経済論	講義	3	後期		2	
	簿記演習	演習	1	後期		2	
	原価計算	講義	2	前期		2	
	財務会計	講義	2	前期		2	
	管理会計	講義	2	後期		2	
	金融論	講義	3	前期		2	
	流通論	講義	1	後期		2	
	消費者行動論	講義	2	前期		2	
	マーケティング特論	講義	2	前期		2	
	マーケティングリサーチ	講義	2	後期		2	
	ビジネス心理学	講義	2	後期		2	
	会社法	講義	3	前期		2	
	労働経済学	講義	3	前期		2	
	経済情報処理	講義	3	前期		2	
	企業取引法	講義	3	後期		2	
	情報分析論	講義	3	後期		2	
	ブランド戦略論	講義	3	後期		2	
	行動経済学	講義	3	集中		2	
	小計(42科目)	42	—	—	0	84	
スポーツ ビジネス	スポーツ経営学入門	講義	1	後期		2	
	スポーツイベント論	講義	2	前期		2	
	スポーツメディア論	講義	2	前期		2	
	スポーツ施設論	講義	3	前期		2	
	スポーツマーケティング論	講義	3	前期		2	
	スポーツマネジメント実践論	講義	3	前期		2	
	スポーツマネジメント演習	講義	3	後期		2	
	小計(7科目)	7	—	—	0	14	

<経済経営学部 現代経営学科 教育課程> 【2022年度入学生対象】

科目区分	授業科目の名称	授業種別	配当		単位数		備考
			年次	学期	必修	選択	
公共経営	公共経営セミナー	講義	1	前期		2	
	法学概論	講義	1	前期		2	
	民法 I	講義	1	後期		2	
	民法 II	講義	2	前期		2	
	キャリアマネジメント I	講義	2	後期		2	
	行政学	講義	2	後期		2	
	行政法 I	講義	2	後期		2	
	行政法 II	講義	3	前期		2	
	キャリアマネジメント II	講義	3	前期		2	
	地方自治論	講義	3	前期		2	
	キャリアマネジメント III	講義	3	後期		2	
	税法	講義	3	後期		2	
	キャリアマネジメント IV	講義	4	通年		2	
	小計(13科目)		13	—	0	26	
コア科目 キャリア形成	現代経営実践演習基礎 I	演習	1	前期		2	
	資格検定対策 V (ICTスキル系)	演習	1	前・後		2	
	現代経営実践演習基礎 II	演習	1	後期		2	
	資格検定対策 I (語学系)	演習	1・2	前期		2	
	資格検定対策 II (情報系)	演習	1・2	後期		2	
	フィールドワーク	実習	1・2	前・後		1	
	国際交流実習 I (基礎)	実習	1・2・3	前期		1	
	国際交流実習 II (応用)	実習	1・2・3	後期		1	
	海外研修	実習	1・2・3・4	前期		1	
	現代経営実践演習基礎 III	演習	2	前期		2	
	公衆衛生学	講義	2	前期		2	
	運動生理学	講義	2	前期		2	
	解剖生理学	講義	2	前期		2	
	資格検定対策 III (簿記系)	演習	2	前期		2	
	資格検定対策 IV (ビジネス系)	演習	2	前期		2	
	インターンシップ I	実習	2・3	前・後		2	
	インターンシップ(公共経営)	実習	2・3	前・後		2	
	スポーツバイオメカニクス	講義	2	後期		2	
	救急処置	演習	2	集中		2	
	特別講義 I	講義	3・4	通年		4	
	特別講義 II	講義	3・4	通年		4	
	特別演習 I	演習	3・4	通年		4	
	特別演習 II	演習	3・4	通年		4	
	特別演習 III	演習	3・4	通年		4	
	日本語教授法 II	講義	3	前期		2	
	日本語教育演習 I	演習	3	前期		2	
	日本語教育実習 I	実習	3	前期		1	
	労働衛生学	講義	3	前期		2	
	健康管理とスポーツ医学	講義	3	後期		2	
	日本語教授法 I	講義	3	後期		2	
	日本語評価法	講義	3	後期		2	
	スポーツイベント運営実習	実習	3	集中		1	
	ビジネスコーチング	演習	3	通年		4	
	日本語教育演習 II	演習	4	後期		2	
	日本語教育実習 II	実習	4	後期		1	
	小計(35科目)		35	—	0	75	
ゼミナール	ゼミナール I (基礎)	演習	3	通年	4		
	ゼミナール II (応用)	演習	4	通年	4		
	卒業研究	演習	4	通年		4	
	小計(3科目)		3	—	8	4	
	合計(100科目)		100	—	8	163	
その他科目	他学部・他学科科目						
	他大学科目						
合計(202科目)			202	—	38	333	

第2章 免許・資格取得に必要な科目履修方法

1. 学校図書館司書教諭	… P 43
(1) 資格の内容	… P 43
(2) 修得すべき科目と単位数	… P 43
(3) 申請資格と申請手続	… P 43
 2. 保育士資格	… P 44
(1) 履修方法	… P 44
(2) 保育実習の日数と単位	… P 46
(3) 保育実習参加資格	… P 46
(4) 保育実習の流れ	… P 46
 3. 柔道整復師国家資格	… P 47
(1) 柔道整復師養成施設指導要領(別添)	… P 47
(2) 履修科目一覧	… P 47
 4. 財団法人 健康・体力づくり事業財団 認定資格	… P 51
(1) 健康運動指導士	… P 51
(2) 健康運動実践指導者	… P 52
(3) 受験資格認定要件科目一覧	… P 53
 5. 全米ストレングス＆コンディショニング協会 認定資格	… P 54
(1) CSCS(Certified Strength & Conditioning Specialist)	… P 54
(2) 受験資格認定要件科目一覧	… P 55
(3) 受験までの流れ	… P 55
 6. 公益財団法人 日本スポーツ協会 認定資格	… P 56
(1) コーチングアシスタント	… P 56
(2) ジュニアスポーツ指導員	… P 56
(3) スポーツプログラマー	… P 56
(4) 公認バレーボールコーチ1	… P 56
(5) 公認ハンドボールコーチ1	… P 56
(6) アスレティックトレーナー	… P 57
(7) 科目一覧	… P 57
(8) 公認スポーツ指導者養成講習会共通科目免除に関する科目	… P 59
 7. 財団法人 日本レクリエーション協会 認定資格	… P 60
(1) レクリエーション・インストラクター	… P 60
(2) スポーツ・レクリエーション指導者	… P 60
(3) 科目一覧	… P 60

8. 一般社団法人 全国体育スポーツ系大学協議会 認定資格	… P 62
(1) JPSU-ST	… P 62
(2) 受験資格認定要件科目一覧	… P 63
9. ジャパン・アスレチック・トレーナーズ協会 認定資格	… P 65
(1) JATAC-ATC	… P 65
(2) 受験資格認定要件科目一覧	… P 66
10. 公益財団法人 日本パラスポーツ協会 公認資格	… P 67
(1) 障がい者スポーツ指導員(初級スポーツ指導員)	… P 67
(2) 科目一覧	… P 67
11. 公益財団法人 こども教育支援財団 認定資格	… P 68
(1) 子育て支援プロジェクトリーダー	… P 68
(2) 乳幼児ケアヘルパー(基礎)	… P 69
(3) 学習心理支援カウンセラー(教員入門課程)	… P 70
12. 社会調査士資格	… P 71
(1) 資格の内容	… P 71
(2) 修得すべき科目と単位数	… P 71
(3) 申請手続	… P 71
13. 第一種衛生管理者免許	… P 72
(1) 資格の内容	… P 72
(2) 修得すべき科目と単位数	… P 72
(3) 申請手続	… P 73
14. 日本語教師 認定資格	… P 74
(1) 資格の内容	… P 74
(2) 修得すべき科目と単位数	… P 74
(3) 履修方法と履修制限	… P 75
(4) 修了証申請手続	… P 75

1. 学校図書館司書教諭

(1) 資格の内容

『学校図書館法』に基づき学校図書館で専門的職務に従事する職員を「学校図書館司書教諭」といいます。この資格を取得しようとする場合は、教職課程を履修し、教育職員免許状を取得することが前提となり、同時に文部科学省令に定められた司書教諭講習科目を履修して単位を修得すると『学校図書館法施行規則』に規定される、司書教諭の資格が与えられます。

(2) 修得すべき科目と単位数

本学において学校図書館司書教諭資格の取得を希望する場合は、下記の表に示されている開講科目のすべてを履修し単位を修得するとともに、教育職員免許状を取得しなければなりません。

したがって、教育職員免許状の取得ができない者は当該科目を履修することができません。

※小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭の普通免許状を有することが基礎資格となります。

※学校図書館には司書教諭のほかに司書（学校司書）として採用されることがあります、この場合は、「図書館司書」の資格が求められます。

文部科学省講習科目		左記に対応する本学開講科目		
科 目 名	単位	科 目 名	単位	配 当 年 次
学校経営と学校図書館	2	学校経営と学校図書館	2	4
学校図書館メディアの構成	2	学校図書館メディアの構成	2	4
学習指導と学校図書館	2	学習指導と学校図書館	2	4
読書と豊かな人間性	2	読書と豊かな人間性	2	4
情報メディアの活用	2	情報メディアの活用	2	4
合 計	10	合 計	10	

(3) 申請資格と申請手続

学校図書館司書教諭の資格（修了証書の交付）を取得するには、申請手続が必要となります。この申請は、大学卒業後、大学から一括して申請することもできます。一括申請を希望する場合は、以下の点に注意してください。

1) 在学時に必要な事項

- ① 全5科目10単位の修得。（※全科目の単位を本学で修得した学生のみ一括申請できます。）
- ② 教育職員免許法に定める小学校、中学校、高等学校もしくは特別支援学校の教諭の普通免許状を所有するか、もしくはその教員免許状取得に必要なすべての単位の修得。

2) 申請手続時期・方法

- ① 申請申込の受付は2月に案内します（実際の申請手続は卒業後の6月ごろになります）。
- ② 申請手続には、「教育職員免許状授与証明書」が必要になります。

3) 司書教諭修了証書交付

司書教諭修了証書の交付（本人宛郵送）は、申請後の翌年3月ごろになります。

※この交付をもって、資格を取得したことになります。

2. 保育士資格 (次世代教育学部 こども発達学科 対象資格)

保育士とは、児童福祉法施行令による「児童福祉施設」において乳幼児・児童の保育およびその保護者に対して保育に関する指導を行う職員のことを指します。保育士資格を得るためにには、厚生労働大臣の指定する保育士養成校において、別表のとおり所定の単位を修得しなければなりません。

本学では、次世代教育学部こども発達学科に在籍する学生が、以下の所定単位を修得することで保育士の資格を取得することができます。なお、保育実習を履修する学生は、保育実習に関する内規の条件を満たした者でなければなりません。

(1) 履修方法

- (1) 必修科目 別表第一の欄に掲げる全ての科目
- (2) 選択必修科目 別表第二の欄に掲げる系列のうちから18単位以上
(うち保育実習2単位以上、保育実習指導1単位を含む)
- (3) 教養科目 10単位以上 (うち外国語2単位以上、体育理論・体育実技の2単位を含む)

<保育士資格に関する科目>

	系列	教科目	授業形態	単位数	左に対応して開設されている教科目	授業形態	配当年次	単位数		備考 (変更内容の概要等)
								必修	選択	
告示別表第1による教科目	保育の本質・目的に関する科目	保育原理	講義	2	保育原理	講義	1	2		
		教育原理	講義	2	教育の思想と原理	講義	1	2		
		子ども家庭福祉	講義	2	子ども家庭福祉	講義	1	2		
		社会福祉	講義	2	社会福祉学	講義	1	2		
		子ども家庭支援論	演習	2	子ども家庭支援論	講義	3	2		
		社会的養護Ⅰ	講義	2	社会的養護Ⅰ	講義	2	2		
		保育者論	講義	2	保育者論	講義	1	2		
告示別表第1による教科目	保育の対象の理解に関する科目	保育の心理学	講義	2	発達心理学	講義	2	2		
		子ども家庭支援の心理学	講義	2	子ども家庭支援の心理学	講義	2	2		
		子どもの理解と援助	演習	1	子どもの理解と援助Ⅰ	演習	2	1		
		子どもの保健	講義	2	子どもの保健	講義	1	2		
		子どもの食と栄養	演習	2	子どもの食と栄養	演習	3	2		
告示別表第1による教科目	保育の内容・方法に関する科目	保育の計画と評価	講義	2	教育課程論	講義	3	2		
		保育内容総論	演習	1	保育内容総論Ⅰ	演習	2	1		
		保育内容演習	演習	5	保育内容「人間関係」指導法	演習	2	2		
					保育内容「環境」指導法	演習	2	2		
					保育内容「言葉」指導法	演習	2	2		
		保育内容の理解と方法	演習	4	幼児と表現	講義	1	2		
					幼児と健康	講義	1	2		
					乳児保育Ⅰ	講義	2	2		
					乳児保育Ⅱ	演習	1	1		
		子どもの健康と安全	演習	1	保育内容「健康」指導法Ⅰ	演習	2	1		
		障害児保育	演習	2	障害児保育	演習	2	2		
		社会的養護Ⅱ	演習	1	社会的養護Ⅱ	演習	2	1		
		子育て支援	演習	1	子ども子育て教育相談Ⅰ	演習	3	1		
告示別表第1による教科目	保育実習	保育実習Ⅰ	実習	4	保育実習ⅠA(保育所)	実習	2	2		
					保育実習ⅠB(施設)	実習	2	2		
		保育実習指導Ⅰ	演習	2	保育実習指導ⅠA(保育所)	演習	2	1		
					保育実習指導ⅠB(施設)	演習	2	1		
総合演習		保育実践演習	演習	2	教職実践演習	演習	4	2		

第2章 免許・資格取得に必要な科目履修方法

	系列	教科目	授業形態	単位数	左に対応して開設されている教科目	授業形態	配当年次	単位数		備考 (変更内容の概要等)								
								必修	選択									
別表第2による教科目	保育の本質・目的に関する科目	各指定保育士養成施設において設定	15単位以上	次世代教育学 子どものこころ 教育心理学 子どもの理解と援助Ⅱ 保育内容「健康」指導法Ⅱ 乳児保育Ⅲ 保育内容総論Ⅱ 社会的養護Ⅲ 子ども子育て教育相談Ⅱ 保育内容「造形表現」指導法 保育内容「音楽表現」指導法 保育内容「身体表現」指導法 図画工作Ⅰ 器楽演習Ⅰ	講義 講義 講義 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習	1 3 1 2 3 2 2 2 3 2 2 2 1 1	2 2 2 1 1 2 2 2 2 2 2 2 1 2											
	保育の対象の理解に関する科目																	
	保育の内容・方法に関する科目																	
	保育実習																	
教養科目	教養科目	外国語・体育以外の科目	不問	6単位以上	心理学 コミュニケーションの心理学 人権と教育 人間と法 数学 生命科学基礎 食育論 自然科学基礎 フレッシュマンセミナー キャリアディベロップメント 日本国憲法 近現代史 コンピュータリテラシーⅠ コンピュータリテラシーⅡ	講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 演習 演習 講義 講義 演習 演習 演習	1 3 2 4 2 3 3 3 1 2 1 3 1 2	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2		いずれか2単位を選択必修								

(2) 保育実習の日数と単位

実習種別	履修方法		実習施設
	施設における 実習日数	単位数	
保育実習ⅠA (必修科目)	10日	2	保育所、認定こども園
保育実習ⅠB (必修科目)	10日	2	乳児院、母子生活支援施設、児童養護施設、知的障害児施設、知的障害児通園施設、自閉症児施設、盲ろうあ児施設、難聴幼児通園施設、肢体不自由児施設、肢体不自由児通園施設、肢体不自由児療護施設、重症心身障害児施設、情緒障害児短期治療施設、児童自立支援施設、知的障害者更正施設、知的障害者授産施設、知的障害者小規模通所授産施設、児童相談所一時保護施設又は独立行政法人国立重度知的障害者総合施設
保育実習Ⅱ (選択必修科目)	10日	2	保育所、認定こども園
保育実習Ⅲ (選択必修科目)	10日	2	児童厚生施設、知的障害児通園施設等の児童福祉施設（通所）その他社会福祉関係諸法令の規定に基づいて設置され、保育実習を行う施設として適当と認められるもの（保育所は除く）

(3) 保育実習参加資格

本学の保育実習科目を履修できる者は、次の(1)(2)の要件を満たした者に限ります。

- (1) 「保育実習に関する内規」の条件をクリアしている者
- (2) 保育実習実施前年度のG P Aが2.0以上の者

さらに、「保育実習指導ⅠA（保育所）」と「保育実習指導ⅠB（施設）」に全て出席し、「保育実習指導Ⅱ（保育所）」または「保育実習指導Ⅲ（施設）」のいずれかに全て出席した者が保育実習に参加できます。

※「実習」科目と「実習指導」（演習）科目は異なります。保育士資格においては、両方の科目的単位取得が必要となります。

(4) 保育実習の流れ

学年	内容
1年	「保育実習ⅠA・ⅠB」説明会 「保育実習ⅠA・ⅠB」実習先依頼手続き【10月～】
2年	「保育実習Ⅱ・Ⅲ」説明会 「保育実習ⅠB」〈児童福祉施設等〉【8月下旬～10月上旬の10日間】 「保育実習Ⅱ・Ⅲ」実習先依頼手続き【10月～】 「保育実習ⅠA」〈保育所〉【1月～3月の10日間】
3年	※「保育実習Ⅱ」〈保育所〉【1月～3月の10日間】 ※「保育実習Ⅲ」〈児童福祉施設等〉【1月～3月の10日間】 ※社会福祉施設への就職希望者以外は、原則として「保育実習Ⅱ」〈保育所〉を選択
4年	保育士登録説明会【10月～11月】

3. 柔道整復師国家資格

<柔道整復師とは>

柔道整復師は、ほねつぎ・接骨師として広く知られ、業務として柔道整復を行うことができる国家資格者をいいます。外傷による運動器（骨・関節・筋・腱・靭帯・軟部組織など）の損傷に対し、非観血的に整復・固定・後療などを行い、人間のもつ自然治癒力を最大限に引き出し、手助けすることで治療します。柔道整復師として活躍する場合は、接骨院、整骨院のみならず、整形外科医院などの医療機関での勤務、スポーツトレーナーとして現場でのケガの応急手当や予防指導、また近年では機能訓練指導員として、福祉・介護の新しい分野で活躍しています。

<柔道整復師国家資格を取得するには>

体育学部健康科学科において柔道整復師養成施設指定規則、柔道整復師養成施設指導要領に掲げる教育内容（別添）および健康科学科の卒業に必要なすべての単位を修得した者（又は卒業見込者を含む）は、厚生労働大臣（試験の実施に関する事務は、法第13条の3第1項の規定により指定試験機関として指定された財団法人柔道整復研修試験財団が行う。）が実施する国家試験を受験することができます。

(1) 柔道整復師養成施設指導要領（別添）

教育内容		教育の目標
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活	科学的・理論的思考力を育て、人間性を高め、自由で主体的な判断力を培う内容とする。生命倫理、人権とその尊厳についても幅広く理解できるようになる。 国際化及び情報化社会に対応できる能力を養う。
専門基礎分野	人体の構造と機能 疾病と傷害 保健医療福祉と柔道整復の理念	人体の構造と機能及び心身の発達を系統立てて理解できる能力を養う。 健康、疾病、外傷及び障害について、その予防と治療に関する知識を修得し、理解力、観察力、判断力を養う。 国民の保健医療福祉の推進のため、柔道整復師が果たすべき役割や職業倫理について学ぶ。 地域における関係諸機関との調整及び教育的役割を担う能力を育成する。 柔道により、柔道整復の源を学ぶとともに、健全な身体の育成及び礼節をわきまえた人格を形成する。
専門分野	基礎柔道整復学 臨床柔道整復学 柔道整復実技 (臨床実習を含む)	柔道整復の枠組みと理論を理解し、系統的な柔道整復の施術を行うことのできる能力を養う。 柔道整復術に必要な知識と技能を修得し、問題解決能力を養う。 柔道整復に関しての社会的要請の多様化に対応できる能力を養う。 柔道整復に関しての社会的要請の多様化に対応できる能力を養う。 種々の外傷に必要な予防と治療の技術を修得する。また、柔道整復に関しての社会的要請の多様化に対応できる技術を養う。 臨床的観察能力、分析力を養い、臨床における実践的能力を修得する。

(2) 履修科目一覧

- (1) 教養科目より必修科目22単位、選択必修科目2単位の合計24単位を修得しなければならない。
 - (2) 専門基礎科目より必修科目25単位を修得しなければならない。
 - (3) コア科目（柔道整復分野）より必修科目44単位を修得しなければならない。
 - (4) コア科目（体育実技・柔道整復実技）より必修科目19単位を修得しなければならない。
 - (5) コア科目（ゼミナール、インターンシップ）より必修科目12単位を修得しなければならない。
- 合計124単位を修得すること。
(履修科目の登録の上限：40単位【年間】) (※2年次は42単位まで)

様式第2号(その2)

教育課程と指定規則との対比表

(2022年度生以降対象)

(柔道整復師学校) (環太平洋大学体育学部健康科学科)

		指定規則の教育内容					別表第一											
区分	授業科目	配当年次	単位数		1単位 当たり の時間 数	履修方法 及び 卒業要件	基礎分野		専門基礎分野			専門分野			計			
			必修	選択			科学的 思考の 基盤	人間と 生活	人体の構 造と機能	疾病と 傷害	柔道整 復術の適 応	柔道整 復術の理 由	保健医療 福祉と	社会保 障制度	基礎柔道 整復学	臨床柔道 整復学	柔道整復 実技	
言語・文化領域	英会話	1前	2		15			○										
	英語Ⅰ	1後		2	15			○										
	英語Ⅱ	2前		2	15			○										
	英語Ⅲ	3前		2	15			○										
	英語Ⅳ	3後		2	15			○										
	日本の伝統文化	1前		2	15			○										
	多文化共生のための異文化理解	2後		2	15			○										
汎用的技能領域	体育理論	1後	1		15				○									
	体育実技	1前	1		15				○									
	コンピュータリテラシーⅠ	1前	2		15				○									
	コンピュータリテラシーⅡ	1後	2		15				○									
	コンピュータリテラシーⅢ	2前		2	15				○									
	コンピュータリテラシーⅣ	3前		2	15				○									
	IPUジエナリックスキルズⅠ(非認知能力)	1前	2		15				○									
	IPUジエナリックスキルズⅡ(アカデミック)	1後	2		15				○									
	IPUジエナリックスキルズⅢ(シチズンシップ)	2後		2	15				○									
	TOEICⅠ	1前		2	15				○									
教養科目	TOEICⅢ	1前		2	15				○									
	TOEICⅡ	1後		2	15				○									
	TOEICⅣ	1後		2	15				○									
	統計学	3前		2	15				○									
	心理学	1前		2	15				○									
	倫理学(宗教を含む)	1後		2	15				○									
	表現活動による人間力養成Ⅰ	1通		2	15				○									
	表現活動による人間力養成Ⅱ	2通		2	15				○									
	表現活動による人間力養成Ⅲ	3通		2	15				○									
	表現活動による人間力養成Ⅳ	4通		2	15				○									
人間・表現領域	コミュニケーションの心理学	3前		2	15				○									
	人権と教育	2前		2	15				○									
	人間と法	4前		2	15				○									
	ライフコーチング	2後		2	15				○									
	数学基礎	2前		2	15				○									
	数学	2後		2	15				○									
	自然科学基礎	3前		2	15				○									
数理領域	生命科学基礎	3前		2	15				○									
	食育論	3前		2	15				○									
	政治・経済学	1後		2	15				○									
社会領域	日本国憲法	1後		2	15				○									
	経営学	2前		2	15				○									
	近現代史	3後		2	15				○									
	地理・地政学	3後		2	15				○									
	労働法規	3前		2	15				○									
	労働安全衛生法	3後		2	15				○									
	フレッシュマンセミナー	1通		2	15				○									
キャリア領域	キャリアディベロップメント	2通		2	15				○									
	キャリアデザインⅠ	3前	1		15													
	キャリアデザインⅡ	3後	1		15													
	キャリアサポート	4前		2	15													
	基礎ゼミナールⅠ	1通		2	15													
	基礎ゼミナールⅡ	2通		2	15													
	ボランティア活動Ⅰ	1集中		2	15													
	ボランティア活動Ⅱ	2集中		2	15													
	計(履修方法・卒業要件)					24		22	0	0	0	1	1	0	0	0	0	24
	必修22単位+選択必修2単位																	

第2章 免許・資格取得に必要な科目履修方法

指定規則の教育内容								別表第一									
区分	授業科目	配当年次	単位数	1単位当たりの時間数	履修方法及び卒業要件	基礎分野		専門基礎分野				専門分野				計	
						科学的思考の基盤	人間と生活	人体の構造と機能	疾病と傷害	柔道整復術の適応	柔道整復術の福祉理念と社会保険制度	基礎柔道整復学	臨床柔道整復学	柔道整復実技	臨床実習		
専門基礎科目	解剖学 I	1前	2	15	必修 25単位			○									
	生理学 I	1前	2	15				○									
	病理学 I	2前	2	15				○									
	運動学特論A	1前	2	15				○									
	運動学特論B	1後	2	15				○									
	公衆衛生学 I	3前	2	15					○								
	解剖・生理学実習 I	3前	1	30				○									
	基礎柔道整復学 I(総論)	1前	2	15						○							
	基礎柔道整復学 II(骨折)	1後	2	15							○						
	基礎柔道整復学 III(脱臼)	2前	2	15							○						
	基礎柔道整復学 IV(捻挫)	2後	2	15							○						
	基礎柔道整復学 V(保存療法)	3集	2	15							○						
	柔道整復解剖生理演習 I	2前	2	15				○									
	柔道整復解剖生理演習 II	2後	2	15				○									
計(履修方法・卒業要件)						25	0	11	2	0	2	0	10	0	0	0	25
コア科目	解剖学 II	1後	2	15	必修 44単位			○									
	生理学 II	1後	2	15				○									
	公衆衛生学 II	3後	2	15					○								
	病理学 II	2後	2	15					○								
	外科学 I	2前	2	15					○								
	外科学 II	2後	2	15					○								
	内科学 I	2後	2	15					○								
	内科学 II	3前	2	15					○								
	整形外科学 I	3前	2	15					○								
	整形外科学 II	3後	2	15					○								
	リハビリテーション医学 I	3前	2	15					○								
	リハビリテーション医学 II	3後	2	15					○								
	柔道整復治療学	4前	2	15					○								
	関係法規	1後	1	15					○								
	臨床柔道整復学 I(骨折 I)	1後	2	15						○							
	臨床柔道整復学 II(骨折 II)	2前	2	15						○							
	臨床柔道整復学 III(脱臼)	2後	2	15						○							
	臨床柔道整復学 IV(捻挫)	3前	2	15						○							
	臨床柔道整復学 V(軟部組織 I)	3前	2	15						○							
	臨床柔道整復学 VI(軟部組織 II)	3後	2	15						○							
	臨床柔道整復学 VII(臨床応用)	3後	2	15						○							
	臨床柔道整復学演習 I	4集	1	8						○							
	臨床柔道整復学演習 II	4集	1	8						○							
	臨床柔道整復学演習 III	4集	1	8						○							
計(履修方法・卒業要件)						44	0	4	18	2	3	0	0	17	0	0	44
コア科目	柔道 I(基礎)	2前	1	30	必修 19単位						○						
	柔道 II(応用)	2後	1	30							○						
	整復学実技 I(包帯法 I)	1前	2	30								○					
	整復学実技 II(包帯法 II)	1後	2	30								○					
	整復学実技 III(上肢・固定法 I)	2前	2	30								○					
	整復学実技 IV(上肢・固定法 II)	2後	2	30								○					
	整復学実技 V(下肢・固定法 I)	3前	2	30								○					
	整復学実技 VI(下肢・固定法 II)	3後	2	30								○					
	整復学実技 VII(総合)	4前	2	30								○					
	健康運動実習	3前・後	1	30								○					
	アスレティックトレーナー実習 I	2前	1	30								○					
	アスレティックトレーナー実習 II	2後	1	30								○					
	計(履修方法・卒業要件)					19	0	0	0	0	2	0	0	0	17	19	

第2章 免許・資格取得に必要な科目履修方法

指定規則の教育内容							別表第一												
教育課程					基礎分野		専門基礎分野			専門分野			計						
区分	授業科目	配当年次	単位数	1単位当たりの時間数	履修方法及び卒業要件		科学的思考の基礎	人間と生活	人体の構造と機能	疾病と傷害	柔道整復術の適応	柔道整復師の福祉理念と社会保険制度	基礎柔道整復学	臨床柔道整復学	柔道整復実技	臨床実習			
コア科目	ナーミルゼミナール I (基礎)	3通	4	15	必修 12単位	○													
	ナーミルゼミナール II (応用)	4通	4	15		○													
	インターンシップ整復臨床実習 I	2通	1	30												○			
	インターンシップ整復臨床実習 II	3通	1	30												○			
	インターンシップ整復臨床実習 III	4集	1	30												○			
	インターンシップ整復臨床実習 IV	4集	1	30												○			
	計(履修方法・卒業要件)					12		8	0	0	0	0	0	0	0	4	12		
	卒業要件単位数					124		30	15	20	2	8	1	10	17	17	4	124	
	指定規則に対する増単位数					16		0	9	0	0	0	0	0	0	0	0	25	
	※ 柔道整復師養成施設必修科目99単位、大学必修科目25単位以上を加えた卒業要件124単位以上を修得しなければならない。																		

4. 財団法人 健康・体力づくり事業財団 認定資格

参照：公益財団法人健康・体力づくり事業財団サイト (<http://www.health-net.or.jp/shikaku/>)

(1) 健康運動指導士

対象学科：体育・健康科学

<健康運動指導士とは>

健康運動指導士とは、保健医療関係者と連携しつつ安全で効果的な運動を実施するための運動プログラム作成及び実践指導計画の調整等を行う役割を担う者をいいます。

この健康運動指導士の養成事業は、昭和63年から厚生大臣の認定事業として、生涯を通じた国民の健康づくりに寄与する目的で創設され、生活習慣病を予防し、健康水準を保持・増進する観点から大きく貢献してまいりました。平成18年度からは、公益財団法人健康・体力づくり事業財団独自の事業として継続して実施しております。

今般の医療制度改革においては、生活習慣病予防が生涯を通じた個人の健康づくりだけでなく、中長期的な医療費適正化対策の柱の一つとして位置づけられており、今後展開される本格的な生活習慣病対策においては、一次予防に留まらず二次予防も含めた健康づくりのための運動を指導する専門家の必要性が増しており、とくに平成20年度から実施の特定健診・特定保健指導において運動・身体活動支援を担うことについて、健康運動指導士への期待がますます高まっているところです。

公益財団法人健康・体力づくり事業財団としては、平成19年度に健康運動指導士の養成カリキュラム、資格取得方法等に至るまで大幅な見直しを行なったことを踏まえ、ハイリスク者も対象とした安全で効果的な運動指導を行なうことのできる専門家を目指す上で健康運動指導士をまず取得すべき標準的な資格であると位置付け、質の高い人材の養成、確保を積極的に図っているところです。

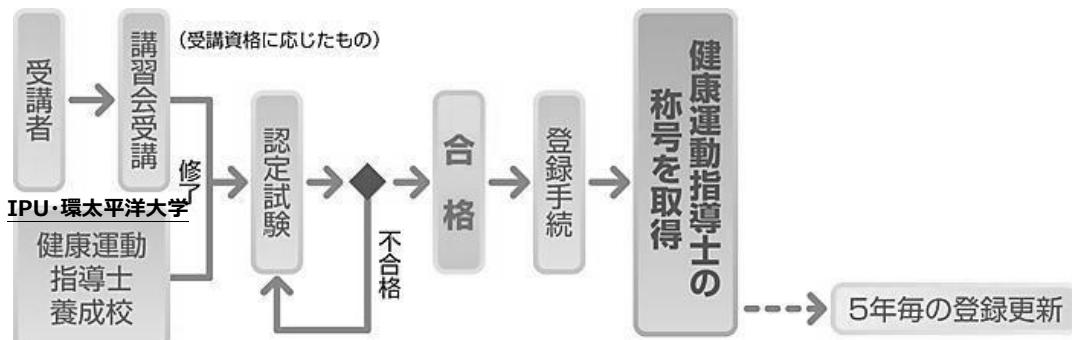
<健康運動指導士の称号を取得するには>

健康運動指導士の称号は、下図のように、健康運動指導士養成講習会を受講するか、又は、健康運動指導士養成校の養成講座を修了して、健康運動指導士認定試験に合格した上で、健康運動指導士台帳に登録されなければなりません。

本学の体育学科・健康科学科は「健康運動指導士養成校」として、財団法人「健康・体力づくり事業財団」から認定を受けています。これにより、4年間に所定の単位を修得した体育学科・健康科学科の学生は、講習会を受けなくても、「健康運動指導士認定試験の受験資格」が与えられます。

<健康運動指導士の受験資格認定要件>

次々頁の(3) 受験資格認定要件科目一覧の表を参考に、該当するすべての科目の単位を修得してください。



(2) 健康運動実践指導者

対象学科：体育・健康科学

<健康運動実践指導者とは>

積極的な健康づくりを目的とした運動を安全かつ効果的に実践指導できる能力を有すると認められる者です。

健康運動実践指導者は、健康づくりのための運動指導者に与えられる称号のひとつで、第2次国民健康づくり運動（アクティブ80ヘルスプラン）の一環として、平成元年の養成開始以来、もうひとつの称号である健康運動指導士と両輪となって生涯を通じた国民の健康づくりに貢献してきました。

しかしながら、健康運動指導士は、従来の「個々人の身体状況に応じた安全で効果的な運動を実施するための運動プログラム作成と指導」に加え、「生活習慣病にかかる可能性のある“ハイリスク者”への個別指導・健康支援」を行う人材として平成19年度から養成されているため、健康運動実践指導者独自の活動範囲及び少子高齢社会に対応した新たな役割がないか、検討した結果、自ら見本を示せる実技能力と、特に集団に対する運動指導技術に長けた者となるよう養成をすすめることとしました。

ご承知のとおり、我が国の健康問題は成人だけに限らず、小・中・高等学校等の学校教育における学習活動を通じて、生涯にわたって自らの健康を適切に管理し改善していく資質や能力を育成していくことが求められています。

健康の概念や我が国が直面している健康課題、さらに生活習慣の乱れやストレスが健康に及ぼす影響など、健康運動実践指導者養成講習会で学んだ知識及び指導スキルは、健康づくりのさらなる国民運動化（ポピュレーションアプローチ）だけでなく、子どもたちの発達段階をふまえた健康教育にも十分に生かしていただけるものと考え、平成21年度より受講資格を改正しました。

運動指導に携わる方にはもちろんのこと、学校教育に携わる方等にも是非、健康運動実践指導者の称号を手にしていただきたくご案内申し上げます。

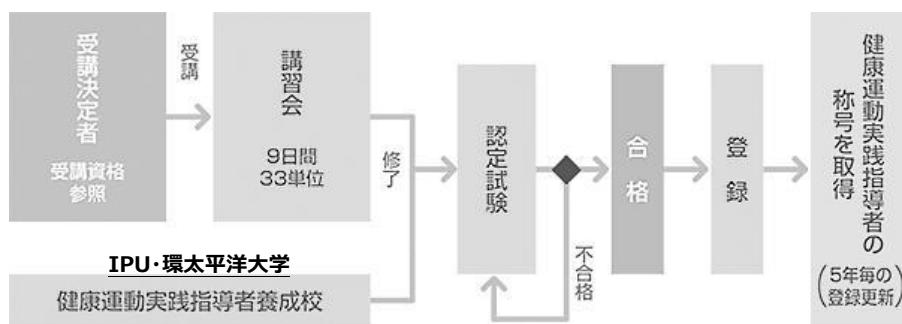
<健康運動実践指導者の称号を取得するには>

健康運動実践指導者の称号を得るには、次図のように、健康運動実践指導者養成講習会を受講するか、又は、健康運動実践指導者養成校の養成講座を修了して、健康運動実践指導者認定試験に合格し、健康運動実践指導者台帳に登録されなければなりません。

本学の体育学科・健康科学科は「健康運動実践指導者養成校」として、財団法人「健康・体力づくり事業財団」から認定を受けています。これにより、4年間に所定の単位を修得した体育学科・健康科学科の学生は、講習会を受けなくても、「健康運動実践指導者認定試験の受験資格」が与えられます。

<健康運動実践指導者の受験資格認定要件>

次頁の(3) 受験資格認定要件科目一覧の表を参考に、該当するすべての科目の単位を修得してください。



(3) 受験資格認定要件科目一覧

<体育学科>

No.	科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数	健康運動指導士	健康運動実践指導者
1	コア	健康管理概論	1	2	必修	必修
2	専門	運動器の解剖と機能 I	1	2	必修	必修
3	教養	体育理論	1	1	必修	—
4	教養	体育実技	1	1	必修	必修
5	コア	水泳 I (基礎)	1	1	必修	必修
6	コア	トレーニング演習 I (基礎)	1	2	必修	必修
7	コア	スタジオエクササイズ	2	2	必修	必修
8	専門	スポーツバイオメカニクス	2	2	必修	必修
9	専門	トレーニング論 I (基礎)	2	2	必修	—
10	専門	運動生理学	2	2	必修	必修
11	専門	スポーツ栄養学	2	2	必修	必修
12	コア	解剖生理学	2	2	必修	必修
13	コア	スポーツ健康論	3	2	必修	必修
14	コア	体育測定・評価	3	2	必修	必修
15	専門	障害者スポーツ論	3	2	必修	—
16	コア	病理学	3	2	必修	—
17	コア	健康運動実習	3	1	必修	—
18	コア	スポーツ相談の実際	3	2	必修	—
19	コア	スポーツ健康演習	3	2	必修	必修
20	コア	運動障害と予防および救急処置	4	2	必修	必修

<健康科学科>

No.	科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数	健康運動指導士	健康運動実践指導者
1	専門	健康管理概論	1	2	必修	必修
2	教養	体育理論	1	1	必修	—
3	教養	体育実技	1	1	必修	必修
4	専門	運動学特論 A	1	2	必修	必修
5	専門	運動学特論 B	1	2	必修	必修
6	専門	体育測定・評価	1	2	必修	必修
7	専門	障害者スポーツ論	1	2	必修	—
8	コア	水泳 I (基礎)	1	1	必修	必修
9	コア	内科学 I	2	2	必修	—
10	コア	病理学 II	2	2	必修	—
11	他学科	スタジオエクササイズ	2	1	必修	必修
12	コア	スポーツ健康論	2	2	必修	必修
13	コア	スポーツ健康実習	2	1	必修	必修
14	コア	運動障害と予防および救急処置	2	2	必修	必修
15	専門	運動生理学	2	2	必修	必修
16	専門	トレーニング演習	2	2	必修	必修
17	専門	トレーニング論 I (基礎)	2	2	必修	—
18	専門	スポーツバイオメカニクス	2	2	必修	—
19	専門	スポーツ栄養学	2	2	必修	必修
20	コア	内科学 II	3	2	必修	—
21	コア	整形外科学 I	3	2	必修	—
22	コア	健康運動実習	3	1	必修	—
23	専門	スポーツ相談の実際	3	2	必修	—

5. 全米ストレングス＆コンディショニング協会 認定資格

参照：日本ストレングス＆コンディショニング協会サイト (http://www.nsca-japan.or.jp/04_certif/aboutcscs.html)

(1) CSCS(Certified Strength & Conditioning Specialist)

対象学科：体育・健康科学

<CSCSとは>

「Certified Strength & Conditioning Specialist : CSCS(認定ストレングス＆コンディショニングスペシャリスト)」は、傷害予防とスポーツパフォーマンス向上を目的とした、安全で効果的なトレーニングプログラムを計画・実行する知識と技能を有する人材を認定する資格です。

指導対象は主にアスリート、スポーツチームです。筋力トレーニングや他の体力要素の指導だけでなく、施設を運営、管理することも重要な職務となります。また、栄養、ドーピング、生活習慣に関する指導など、教育的側面も併せ持っています。

ストレングスコーチ、アスレティックトレーナー、パーソナルトレーナー、医師、フィットネスインストラクター、研究者などがCSCSの資格を取得しています。全世界で30,000名以上、日本では1,500名以上のCSCS認定者が活躍しています（2016年3月現在）。

<CSCSを取得するには>

以下の条件1～3すべてを満たしていること

1. 下記(1)、(2)、(3)のいずれかに該当する者

- (1) 学校教育法が定める4年制大学の卒業者または大学4年生の卒業見込み者。
- (2) 学校教育法が定める4年制大学、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構、または海外の大学より学位（学士・修士・博士）を授与された者。
- (3) 高度専門士の称号を付与された者。

学部不問。出願時に、4年制大学の卒業証明書もしくは卒業見込み証明書、または学位取得を証明する書類（学位授与証明書、修了証明書）、または高度専門士の称号取得を証明する書類が必要。

2. 出願時および受験時に、NSCAジャパンの会員（正会員、学生会員、英文会員）であること。

※IPU在学中は会員でなくても受験できます。

3. 出願時に有効なCPRおよびAEDの認定を保持していること。

※出願時に有効なCPRおよびAEDの認定を保持していない場合は、受験日の1年後までに、有効なCPRおよびAEDの認定証のコピーを提出すること。

【NSCA資格認定試験の出願に必要なCPR/AED認定の基準】

1. 講習に実技が含まれていること（オンラインのみのコースは不可）

2. 実技評価が含まれていること

（該当する団体）

日本赤十字社（基礎講習のみも可）、日本ライフセービング協会、国際救命救急協会、MFA JAPAN、マスターワークス、トライ・ワークス、消防署（庁）など

※講習会の日程や内容などの詳細は、各団体へ直接お問い合わせください。

※受講するコースによっては、有効なCPR・AEDの講習会と認められない場合がございます。ご不明な点は、NSCAジャパン事務局までお問い合わせください。

※出願時に、CPRおよびAED認定証（もしくは修了証）のコピーを提出していただきます。ただし出願時に有効な認定証に限ります。

※出願条件は年度によって変わることあります。NSCA資格認定試験ハンドブックでご確認ください。

※卒業見込みで受験して合格された場合、卒業後に卒業証明書を提出していただくまでは、CSCSの認定およびCSCS認定証の発行は行いません。

<CSCSの受験資格認定要件>

次頁の(2) 受験資格認定要件科目一覧の表を参考に、該当するすべての科目的単位を修得してください。

(2) 受験資格認定要件科目一覧

<体育学科>

No.	科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数
1	コア	運動器の解剖と機能 I	1	2
2	コア	トレーニング演習 I (基礎)	1	2
3	専門	運動生理学	2	2
4	専門	スポーツバイオメカニクス	2	2
5	専門	スポーツ栄養学	2	2
6	専門	トレーニング論 I (基礎)	2	2
7	コア	フィットネスプログラム論	2	2
8	専門	救急処置※	2	2
9	コア	トレーニング論 II (応用)	3	2
10	コア	トレーニング指導実習	3	2

※1 「救急処置」は、「救急処置 (CSCS)」を履修すること。

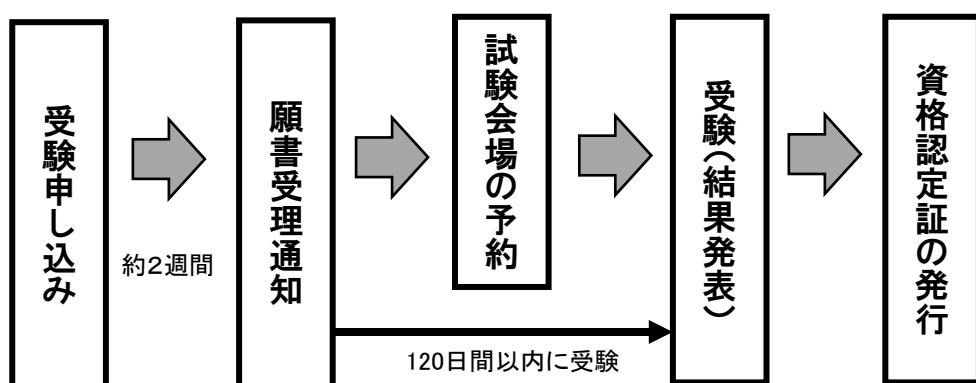
<健康科学科>

No.	科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数
1	他学科	運動器の解剖と機能 I	1	2
2	専門	運動生理学	2	2
3	専門	スポーツバイオメカニクス	2	2
4	専門	スポーツ栄養学	2	2
5	専門	トレーニング論 I (基礎)	2	2
6	他学科	フィットネスプログラム論	2	2
7	専門	トレーニング演習	2	2
8	コア	救急処置※	2	2
9	専門	トレーニング論 II (応用)	3	2
10	他学科	トレーニング指導実習	3	1

※1 「救急処置」は、「救急処置 (CSCS)」を履修すること。

(3) 受験までの流れ

大学で一括申請

卒業後に
協会より送付

6. 公益財団法人 日本スポーツ協会 認定資格

(1) コーチングアシスタント

対象学科：体育・健康科学・こども発達・教育経営

＜コーチングアシスタントの資格とは＞

地域におけるスポーツグループやサークル等において、上位資格者を補佐する者として、基礎的なスポーツ指導や運営にあたる方のための資格です。

＜コーチングアシスタントの資格を取得するには＞

本学では、次頁以降の「コーチングアシスタント資格科目」の単位を全て修得し、最後に日本スポーツ協会で実施する検定試験に合格すれば資格を取得できます。

(2) ジュニアスポーツ指導員

対象学科：体育・健康科学・こども発達・教育経営

＜ジュニアスポーツ指導員の資格とは＞

2歳くらいから15歳くらいまでの子供たちの指導者のための資格です。地域スポーツクラブ等において、子供たちに遊びを通した身体づくり、動きづくりの指導を行えるよう、発育発達期の身体的・心理的特長についての専門的知識と指導ノウハウが求められます。

＜ジュニアスポーツ指導員の資格を取得するには＞

本学では、次頁以降の「ジュニアスポーツ指導員資格科目」の単位を全て修得し、最後に日本スポーツ協会で実施する検定試験に合格すれば資格を取得できます。

(3) スポーツプログラマー

対象学科：体育・健康科学・こども発達・教育経営

＜スポーツプログラマーの資格とは＞

ジュニアスポーツ指導員とともに日本スポーツ協会のフィットネス資格にあたる資格で、ジュニアスポーツ指導員が子供たちを対象とするのに対し、青年期以降の人々を対象に地域のスポーツクラブなどで体力の維持・向上を目的とした運動プログラム作成や指導・助言などを行います。

＜スポーツプログラマーの資格を取得するには＞

本学では、次頁以降の「スポーツプログラマー資格科目」の単位を全て修得し、最後に日本スポーツ協会で実施する検定試験に合格すれば資格を取得できます。

(4) 公認バレー ボールコーチ 1

対象学科：体育・健康科学・こども発達・教育経営

＜公認バレー ボールコーチ 1の資格とは＞

地域スポーツクラブ・スポーツ少年団・学校部活動・ヤングバレー ボールクラブ等において、コーチングスタッフとして活躍できる指導者資格です。

＜公認バレー ボールコーチ 1の資格を取得するには＞

本学では、次頁以降の「公認バレー ボールコーチ 1 資格科目」の単位を全て修得し、最後に日本スポーツ協会で実施する検定試験に合格すれば資格を取得できます。

(5) 公認ハンドボールコーチ 1

対象学科：体育・健康科学・こども発達・教育経営

＜公認ハンドボールコーチ 1の資格とは＞

地域スポーツクラブ・スポーツ少年団・小・中・高等学校運動部活動等でのコーチングスタッフとして、基礎的な知識・技能に基づき、安全で効果的な活動を提供できる指導者資格です。

＜公認ハンドボールコーチ 1の資格を取得するには＞

本学では、次頁以降の「公認ハンドボールコーチ 1 資格科目」の単位を全て修得し、最後に日本スポーツ協会で実施する検定試験に合格すれば資格を取得できます。

(6) アスレティックトレーナー

対象学科：体育・健康科学

<アスレティックトレーナーの資格とは>

スポーツドクター及びコーチとの緊密な協力のもとに、競技者の健康管理、傷害予防、スポーツ外傷・障害の救急処置、アスレティックリハビリテーション及びトレーニング、コンディショニング等にあたります。

<アスレティックトレーナーの資格を取得するには>

本学の体育学部の学生は、次頁以降の「アスレティックトレーナー資格科目」の単位を全て修得し、最後に日本スポーツ協会で実施する理論試験と実技試験に合格すれば資格を取得できます。

(7) 科目一覧

●コーチングアシスタント 資格科目

No.	科目区分			授業科目的名称	配当年次	単位数
	体育	健康	こども教育経営			
1	専門	専門	他学科	体育原理	1	2
2	専門	専門	他学科	健康科学概論	1	2

●ジュニアスポーツ指導員 資格科目

No.	科目区分			授業科目的名称	配当年次	単位数	特記事項
	体育	健康	こども教育経営				
1	専門	専門	他学科	体育原理	1	2	
2	専門	専門	他学科	健康科学概論	1	2	
3	専門	専門	他学科	発育と発達	1	2	
4	専門	他学科	他学科	コーチング論	2	2	
5	専門	他学科	他学科	レクリエーションスポーツ	2	1	
6	コア	他学科	他学科	剣道Ⅱ（応用）	2	1	選択必修 いずれかから1科目
7	コア	コア	他学科	柔道Ⅱ（応用）	2	1	選択必修 いずれかから1科目
8	コア	コア	他学科	ダンスⅡ（応用）	2	1	選択必修 いずれかから1科目
9	コア	他学科	他学科	バスケットボールⅡ（応用）	2	1	選択必修 いずれかから1科目
10	コア	他学科	他学科	陸上Ⅱ（応用）	2	1	選択必修 いずれかから1科目
11	コア	他学科	他学科	器械運動Ⅱ（応用）	2	1	選択必修 いずれかから1科目
12	コア	他学科	他学科	バレーボールⅡ（応用）	3	1	選択必修 いずれかから1科目

※No.6～12のいずれかの1科目を修得すること。

●スポーツプログラマー 資格科目

No.	科目区分			授業科目的名称	配当年次	単位数	特記事項
	体育	健康	こども教育経営				
1	専門	専門	他学科	体育原理	1	2	
2	専門	専門	他学科	健康科学概論	1	2	
3	専門	専門	他学科	体育心理学	1	2	
4	一	教養	教養	体育実技	1	1	
	コア	一	一	インクルーシブスポーツ	1	1	
5	コア	他学科	他学科	器械運動Ⅰ（基礎）	1	1	
6	コア	コア	他学科	水泳Ⅰ（基礎）	1	1	
7	コア	一	他学科	トレーニング演習Ⅰ（基礎）	1	1	
	一	専門	他学科	トレーニング演習	1	1	
8	コア	コア	他学科	ダンスⅠ（基礎）	2	1	
9	専門	専門	他学科	トレーニング論Ⅰ（基礎）	2	2	
10	専門	他学科	他学科	コーチング論	2	2	
11	コア	他学科	他学科	レクリエーションスポーツ	2	1	
12	コア	他学科	他学科	フィットネスプログラム論	2	2	
13	コア	他学科	他学科	体つくり運動	2	2	
14	コア	他学科	他学科	スポーツ相談の実際	3	2	
15	コア	専門	他学科	体育測定・評価	3	2	

●公認バレーボールコーチ 1 資格科目

No.	科目区分			授業科目的名称	配当年次	単位数	特記事項
	体育	健康	こども教育経営				
1	専門	専門	他学科	体育原理	1	2	
2	専門	専門	他学科	健康科学概論	1	2	
3	専門	コア	他学科	救急処置	1	2	救急処置（CSCS）を履修すること
4	コア	他学科	他学科	バレーボールⅠ（基礎）	1	1	
5	コア	他学科	他学科	バレーボールⅡ（応用）	1	1	

●公認ハンドボールコーチ 1 資格科目

No.	科目区分			授業科目的名称	配当年次	単位数	特記事項
	体育	健康	こども教育経営				
1	専門	専門	他学科	体育原理	1	2	
2	専門	専門	他学科	健康科学概論	1	2	
3	コア	他学科	他学科	ハンドボールⅠ（基礎）	2	1	
4	コア	他学科	他学科	ハンドボールⅡ（応用）	3	1	

●アスレティックトレーナー 資格科目

No.	科目区分		授業科目的名称	配当年次	単位数	特記事項
	体育	健康				
1	専門	専門	体育原理	1	2	
2	専門	専門	健康科学概論	1	2	
3	専門	専門	体育心理学	1	2	
4	専門	他学科	運動器の解剖と機能 I	1	2	
5	専門	他学科	運動器の解剖と機能 II	1	2	
6	コア	他学科	アスレティックトレーナーの役割	2	2	
7	専門	専門	トレーニング論 I (基礎)	2	2	
8	専門	他学科	コーチング論	2	2	
9	専門	コア	救急処置	2	2	※救急処置(AT)を履修すること。
10	コア	他学科	スポーツ心理学	2	2	
11	コア	他学科	アスレティックリハビリテーション基礎	2	2	
12	コア	他学科	トレーニング演習 II (応用)	2	2	
13	コア	コア	検査・測定と評価 I	2	2	
14	コア	コア	検査・測定と評価 II	2	2	
15	コア	—	アスレティックトレーナー現場実習 I	2	1	
	—	コア	アスレティックトレーナー実習 I	2	1	
16	コア	—	アスレティックトレーナー現場実習 II	2	1	
	—	コア	アスレティックトレーナー実習 II	2	1	
17	コア	他学科	スポーツ外傷・障害の基礎知識 I	2	2	
18	コア	他学科	スポーツ外傷・障害の基礎知識 II	2	2	
19	コア	他学科	予防とコンディショニング I	2	2	
20	専門	専門	運動生理学	2	2	
21	専門	専門	スポーツバイオメカニクス	2	2	
22	専門	専門	スポーツ栄養学	2	2	
23	コア	他学科	予防とコンディショニング II	3	2	
24	コア	コア	健康管理とスポーツ医学	3	2	
25	コア	専門	トレーニング論 II (応用)	3	2	
26	コア	他学科	アスレティックリハビリテーション I	3	2	
27	コア	他学科	アスレティックリハビリテーション II	3	2	
28	コア	他学科	アスレティックトレーナー現場実習 III	3	1	
29	コア	他学科	アスレティックトレーナー現場実習 IV	3	1	
30	コア	他学科	アスレティックトレーナー現場実習 V	4	2	

(8) 公認スポーツ指導者養成講習会共通科目免除に関する科目

対象学科：体育・健康科学・こども発達・教育経営

卒業後に日本スポーツ協会公認スポーツ指導者の資格取得を目指す者は、以下の科目をすべて履修、単位認定された場合、共通科目免除の手続きが可能となります。詳細はウェブにて日本スポーツ協会、スポーツ指導者関連のページを確認してください。

No.	科目区分			授業科目的名称	配当年次	単位数	特記事項
	体育	健康	こども教育経営				
1	専門	専門	他学科	体育原理	1	2	
2	専門	専門	他学科	健康科学概論	1	2	
3	専門	専門	他学科	体育心理学	1	2	
4	専門	専門	他学科	トレーニング論 I (基礎)	2	2	
5	専門	他学科	他学科	コーチング論	2	2	

7. 財団法人 日本レクリエーション協会 認定資格

(1) レクリエーション・インストラクター

対象学科：体育学科・教育経営学科・こども発達学科

<レクリエーション・インストラクターとは>

レクリエーション・インストラクターとは、余暇やレクリエーションに関する理論と基本的な学習を積み、レクリエーションを楽しく教える指導者に必要な資格です。地域、学校、企業等でレクリエーションの指導・促進を行う専門家で、レクリエーションに興味・関心を持つ人の入門的な資格です。様々な遊びのメニューと技術を持つことで多くの人に楽しさの体験を提供することができ、教育・福祉分野、各地域団体、野外活動団体での芸術・文化・学習活動や生涯スポーツ、各種レクリエーション等で、知識と技術を生かすことができます。

<レクリエーション・インストラクターの資格を取得するには>

本学では、次頁以降のレクリエーション・インストラクターの「専門科目」の単位を修得すれば資格を取得できます。

なお、レクリエーション・インストラクターの資格を申請・登録するには、16,000円（2022年度登録料、税別）が必要となります。登録は2年間有効です。

(2) スポーツ・レクリエーション指導者

対象学科：体育学科・教育経営学科・こども発達学科

<スポーツ・レクリエーション指導者とは>

スポーツ・レクリエーション指導者は、専門の知識や技術を持って、運動やスポーツが苦手な人でもスポーツ・レクリエーションを楽しめる環境を創る指導者です。「人の心を元気にする」というレクリエーション事業の手段の一つで、レクリエーションの一般的な知識や技術に加え、スポーツを楽しむための知識や技術が求められます。スポーツ指導者、小学校・中学校教諭、総合型クラブ関係者、行政や民間組織の職員等でレクリエーションを用いて活動するための資格で、スポーツ未実施者の参加促進と、楽しさと運動効果をベースとした継続へと促す動機付けの支援技術の知識と技術を学ぶ、今までにない新たな取組みの資格です。

<スポーツ・レクリエーション指導者の資格を取得するには>

本学では、次頁以降のスポーツ・レクリエーション指導者の「専門科目」の単位を修得すれば資格を取得できます。

なお、スポーツ・レクリエーション指導者の資格を申請・登録するには、16,000円（2022年度登録料、税別）が必要となります。登録は2年間有効です。

(3) 科目一覧

●レクリエーション・インストラクター 専門科目一覧

No.	科目区分		授業科目的名称	配当年次	単位数
	体育	こども発達 教育経営			
1	コア	他学科	レクリエーション論	1	2
2	コア	他学科	レクリエーションスポーツ	2	1
3	コア	他学科	キャンプ実習	2	1
4	コア	—	インクルーシブスポーツ	1	1
	—	教養	体育実技	1	1
5			現場実習（事業参加）※		

※ 現場実習（事業参加）について

現場実習（事業参加）とは、(財)日本レクリエーション協会が主催している各種イベントをいいます。

現場実習3回のうち、必ず1回は地域のレクリエーション協会が関係する事業に参加しなければなりません。

日本レクリエーション協会では、事業参加の対象となる事業形態を下記のように示しています。

●スポーツ・レクリエーション指導者 専門科目一覧

No.	科目区分			授業科目的名称	配当年次	単位数
	体育	教育経営	こども発達			
1	コア	他学科	他学科	レクリエーション論	1	2
2	コア	他学科	他学科	レクリエーションスポーツ	2	1
3	コア	コア	他学科	キャンプ実習	2	1
4	コア	他学科	他学科	スポーツ・レクリエーション演習	3	2
5	コア	—	—	インクルーシブスポーツ	1	1
	—	教養	教養	体育実技	1	1
6				現場実習（事業参加）※		

※ 現場実習（事業参加）について

現場実習（事業参加）とは、(財)日本レクリエーション協会が主催している各種イベントをいいます。

現場実習3回のうち、必ず1回は地域のレクリエーション協会が関係する事業に参加しなければなりません。
日本レクリエーション協会では、事業参加の対象となる事業形態を下記のように示しています。

項目	内容
事業参加の対象となる事業	①日本レク協会、都道府県レク協会、市区町村レク協会の主催事業 具体的には、レク大会、研究大会、スポレク祭、全国一斉WR大会、CG大会 市民レクのつどい等
	②日本レク協会および都道府県レク協会の加盟する団体の主催事業 各種ニュースポーツ団体、領域別団体などの事業
	③教育委員会などの行政や民間の主催するレク事業で、レク協会が共催、後援、受託等で関係している事業
	④課程認定校連絡会議が主催する行事でレク協会が関係する事業
	⑤課程認定校の裁量で、レク・インストラクターをめざす学生にとってふさわしいと考えられる事業

8. 一般社団法人 全国体育スポーツ系大学協議会 認定資格

(1) JPSU-ST

対象学科：体育・健康科学

<JPSU-STとは>

一般社団法人「全国体育スポーツ系大学協議会」は、平成27年7月に教員やトレーナーなどの人材育成で健康福祉大臣実現に資する目的でスポーツ関連分野を専門とする32大学によって設立されました。体育スポーツ系大学の特色を活かし、医療分野に特化した内容ではなく、スポーツ選手及びスポーツ実践者が、安全にかつ効果的にスポーツを行えるよう、スポーツ医学に基づいたスポーツ外傷・障害の予防や救急処置、コンディション調整、トレーニングの指導などの、身体づくり（コンディショニング）の専門的知識・技術を習得することを目指します。すなわち、体育スポーツ系大学で本資格を取得した者は「運動実践指導に長けた救急・予防対応ができる指導者」といえます。また、経済産業省が推奨する資格でもあり、広く我が国の体育スポーツ界の発展に寄与することが期待されます。

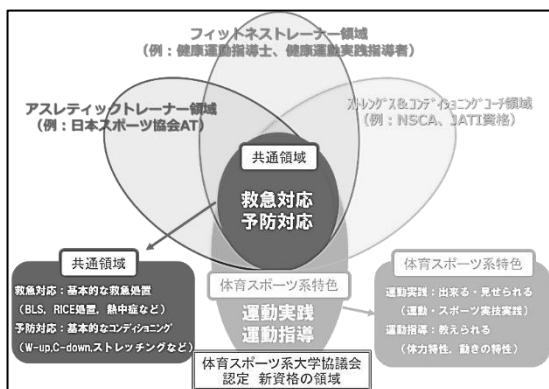


図1 他資格との住み分け

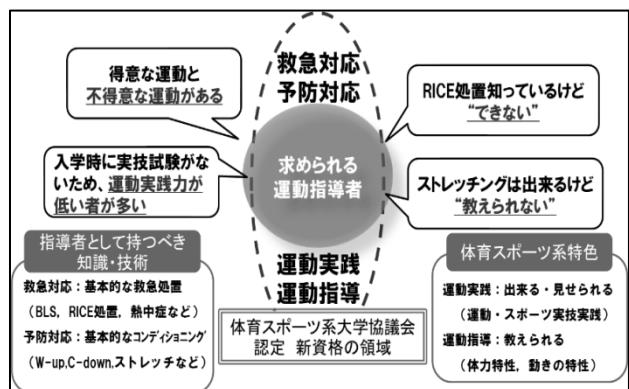


図2 JPSU-STの領域

<JPSU-STの称号を取得するには>

- ①指定カリキュラム（講義・実技）に該当する単位を卒業までに取得すること。
(修了認定講習会時点では見込みでも可)
- ②資格授与時（卒業式）まで有効期限があるBLS資格を取得し、その証明書があること
- ③修了認定講習会の全ての講座を受講すること
- ④修了認定講習会時に行う論述試験を合格すること
- ⑤①～④まで全て修了した者に対して本人宛に認定書を交付する

<JPSU-STの受験資格認定要件>

次頁の(2) 受験資格認定要件科目一覧の表を参考に、該当する科目の単位を修得してください。

(2) 受験資格認定要件科目一覧

<体育学科>

No.	科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数	備考
1	専門	トレーナー論	1	2	
2	専門	体育心理学	1	2	
3	コア	トレーニング演習I（基礎）	1	2	
4	専門	運動器の解剖と機能I	1	2	
5	専門	運動器の解剖と機能II	1	2	
6	専門	運動生理学	2	2	
7	専門	スポーツ栄養学	2	2	
8	専門	トレーニング論I（基礎）	2	2	
9	専門	スポーツバイオメカニクス	2	2	
10	コア	スポーツ外傷・障害の基礎知識I	2	2	
11	コア	トレーニング演習II（応用）	2	2	
12	専門	救急処置	2	2	【AT】を選択
13	コア	予防とコンディショニングI	2	2	
14	コア	健康管理とスポーツ医学	3	2	
15 16 17	コア	水泳I（基礎）	1	1	※4科目の中から3科目履修 ※どちらか1つ選択
	コア	器械運動I（基礎）	1	1	
	コア	柔道I（基礎）	2	1	
	コア	バスケットボールI（基礎）	2	1	
	コア	サッカー	2	1	
18	コア	アスレティックトレーナー現場実習I	2	1	※いずれか1つ選択
	コア	健康運動実習	3	1	
	コア	教育実習	3,4	2	
19	コア	アスレティックトレーナー現場実習II	2	1	※いずれか1つ選択
	コア	運動生理学実習	3	2	
	コア	体力学実習	3	2	
	コア	スポーツ健康演習	3	1	

<健康科学科>

No.	科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数	備考
1	専門	生理学Ⅰ	1	2	
2	コア	生理学Ⅱ	1	2	
3	専門	体育心理学	1	2	
4	専門	運動学特論A	1	2	
5	専門	運動学特論B	1	2	
6	専門	解剖学Ⅰ	1	2	
7	コア	解剖学Ⅱ	1	2	
8	他学科	アスレティックトレーナーの役割	2	2	
9	他学科	予防とコンディショニングⅠ	2	2	
10	コア	柔道Ⅰ（基礎）	2	1	
11	専門	トレーニング演習	2	2	
12	専門	スポーツ栄養学	2	2	
13	専門	トレーニング論Ⅰ（基礎）	2	2	
14	コア	内科学Ⅰ	2	2	
15	他学科	トレーニング演習Ⅱ（応用）	2	2	
16	コア	救急処置	2	2	【AT】を選択
17	コア	内科学Ⅱ	3	2	
18	コア	整形外科学Ⅰ	3	2	
19	コア	整形外科学Ⅱ	3	2	
20	コア	水泳Ⅰ（基礎）	1	1	※3科目の中から2科目履修
	他学科	器械運動Ⅰ（基礎）	1	1	
21	他学科	バスケットボールⅠ（基礎）	2	1	※どちらか1つ選択
	他学科	サッカー	2	1	
22	コア	アスレティックトレーナー実習Ⅰ	2	1	※どちらか1つ選択
	コア	健康運動実習	3	1	
23	コア	アスレティックトレーナー実習Ⅱ	2	1	※どちらか1つ選択
	コア	スポーツ健康実習	2	2	

9. ジャパン・アスレチック・トレーナーズ協会 認定資格

(1) JATAC-ATC

対象学科：体育・健康科学

<JATAC-ATCとは>

特定非営利活動法人ジャパン・アスレチック・トレーナーズ協会(Nonprofit Organization Japan Athletic Trainers Association for Certification)は、平成7年7月に財団法人柔道整復研修試験財団の主催する「スポーツ科学講習会」修了者が母体となり設立されました。柔道整復接骨医学の研究成果を基盤にして、競技スポーツや市民スポーツにおけるスポーツ障害の悪化を抑え、さらにスポーツ障害の予防を積極的に対応し、我が国のスポーツ活動の発展に寄与しようとする団体です。(JATACの理念より抜粋)

<JATAC-ATCの称号を取得するには>

- (1) 以下の資格を持ち、且つ本協会の講習会および本協会の通信教育講座でスポーツ科学分野の単位(表1：4領域69単位)を取得した者
 - 柔道整復師、理学療法士、はり師・きゅう師、作業療法士、看護師、保健師、助産師、救急救命士、あん摩マッサージ指圧師、カイロプラクター、栄養士、薬剤師、養護教諭。
- (2) 但し以下の資格を有する者は、4領域69単位の取得は不要です。
 - NATA認定トレーナー、日本体育協会認定アスレチック・トレーナー。
- (3) 2年制以上の専門学校、大学及び大学院においてスポーツ科学系のコースを卒業し、本協会が認定する臨床医学系専門科目の単位及びスポーツ科学分野の単位(表1：4領域69単位)を取得した者。

本学の体育学科および健康科学科は、「JATAC-ATC養成校」として、特定非営利活動法人「ジャパン・アスレチック・トレーナーズ協会」から認定を受けています。これにより、次項の(2)受験資格認定要件科目一覧の表を参考に、該当する科目の単位を取得し、JATAC全国大会への参加をすれば、必要な手続き後「JATAC-ATCの称号」が与えられます。

表1 スポーツ科学分野の必要単位

領域	必要単位	対象となる科目例
スポーツ医学系	16	・スポーツ医学(内科・整形外科)・スポーツリハビリ機能解剖学 ・スポーツテーピング・スポーツ救急法 等
スポーツ科学系A	34	・スポーツ生理学(I,II,III)・スポーツバイオメカニクス(I,II)・体力測定評価学(I,II) ・スポーツトレーニング(I,II,III)・運動処方学(I,II,III)・スポーツ栄養学(I,II) ・発育発達老化論(I,II)等
スポーツ科学系B	7	・健康科学論(I,II)・スポーツと法・AT活動実践論(水泳・球技・総論) ・コミュニケーション能力・インフォームドコンセント等
研究討議	12	・JATAC全国大会への参加 ・研究法(卒業論文)等

(特定非営利活動法人「ジャパン・アスレチック・トレーナーズ協会」資料より)

(2) 受験資格認定要件科目一覧

<体育学科>

No.	科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数	
1	専門	健康科学概論	1	2	必修
2	専門	発育と発達	1	2	必修
3	コア	アスレティックリハビリテーション論	1	2	必修
4	教養	基礎ゼミナールⅠ	1	2	必修
5	コア	トレーニング演習Ⅰ（基礎）	1	2	必修
6	コア	予防とコンディショニングⅠ	2	2	必修
7	専門	運動生理学	2	2	必修
8	専門	トレーニング論Ⅰ（基礎）	2	2	必修
9	コア	スポーツ法学	2	2	必修
10	専門	スポーツ栄養学	2	2	必修
11	コア	アスレティックトレーナー現場実習Ⅰ	2	1	必修
12	コア	検査・測定と評価Ⅰ	2	2	必修
13	コア	解剖生理学	2	2	必修
14	専門	公衆衛生学	2	2	必修
15	コア	健康運動実習	3	1	必修
16	コア	スポーツバイオメカニクス実習	3	2	必修
17	コア	健康管理とスポーツ医学	3	2	必修
18	コア	ゼミナールⅠ（基礎）	3	4	必修
19	コア	運動障害と予防および救急処置	4	2	必修

<健康科学科>

No.	科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数	
1	専門	解剖学Ⅰ	1	2	必修
2	コア	整復学実技Ⅰ（包帯法Ⅰ）	1	2	必修
3	コア	整復学実技Ⅱ（包帯法Ⅱ）	1	2	必修
4	専門	生理学Ⅰ	1	2	必修
5	コア	生理学Ⅱ	1	2	必修
6	専門	運動学特論A	1	2	必修
7	教養	基礎ゼミナールⅠ	1	2	必修
8	コア	内科学Ⅰ	2	2	必修
9	コア	アスレティックトレーナー実習Ⅰ	2	1	必修
10	コア	アスレティックトレーナー実習Ⅱ	2	1	必修
11	コア	整形外科学Ⅰ	3	2	必修
12	コア	リハビリテーション医学Ⅰ	3	2	必修
13	専門	解剖・生理学実習Ⅰ	3	1	必修
14	コア	健康運動実習	3	1	必修
15	専門	基礎柔道整復学V（保存療法）	3	2	必修
16	コア	臨床柔道整復学IV（捻挫）	3	2	必修
17	コア	ゼミナールⅠ（基礎）	3	4	必修

10. 公益財団法人 日本パラスポーツ協会 公認資格

(1) 障がい者スポーツ指導員（初級スポーツ指導員）

＜障がい者スポーツ指導員（初級スポーツ指導員）の役割とは＞

地域で活動する指導者で、主に初めてスポーツに参加する障がい者に対し、スポーツの喜びや楽しさを重視したスポーツの導入を支援します。そのためには、障がい者の基本内容を理解し、スポーツの導入に必要な基本的知識・技術を身につけ、実践にあたっては、健康や安全管理を重視した指導ができる必要があります。また、地域の大会や行事に参加すると共に、指導員組織の事業にも積極的に参加するなど地域の障がい者スポーツの振興を支えていきます。

＜障がい者スポーツ指導員（初級スポーツ指導員）の資格を取得するには＞

「障がい者スポーツ指導員（初級スポーツ指導員）」の資格を取得するには、協会が主催する養成講習会にて所定のカリキュラムを修了するか、養成課程認定校にて所定の単位を取得した上で、協会に登録しなければなりません。

本学は、認定校であり、所定科目履修および所定ボランティアへの参加により、資格を取得することができます。

(2) 科目一覧

【体育学科】

No.	授業科目の名称	配当年次	単位数	授業方法
1	障害者スポーツ論	3	2	講義

【健康科学科】

No.	授業科目の名称	配当年次	単位数	授業方法
1	障害者スポーツ論	1	2	講義

※申請対象者は上記の科目の「無遅刻」、「無欠席」における単位修得が必須条件となる。

※上記科目の単位修得に加えて、「吉備高原車いすふれあいロードレース」、「岡山県障がい者スポーツ大会」のボランティアに1回以上参加すること。事前ガイダンス受講および事後レポート提出が参加条件となる。

※取得希望者は、所定申請書類を提出するほか、申請・認定料5,500円、登録料3,800円かかる。

11. 公益財団法人 こども教育支援財団 認定資格

(1) 子育て支援プロジェクトリーダー

対象学科：こども発達

<子育て支援プロジェクトリーダーの役割とは>

保育士・幼稚園教諭をはじめ、スポーツインストラクター等、運動をとおして子どもと関わる仕事において、子どもの年齢や一人一人の個性に応じて、幼児体育や運動遊びを「たのしく」「わかりやすく」「安全」に指導する、幼児体育指導の技術を学びます。また、運動指導だけでなく「親子で遊び」や、心身ともに大きく伸びる幼児期において「ダンスや身体表現」の指導法の理論と実践を学びます。

現代の幼児教育においては、幼児の体力の低下が危惧され、一方では自己表現やコミュニケーション能力を育むことが望まれます。子育て支援プロジェクトリーダーは、幼児期の身体活動をとおして、現代の課題の解決に向けて取組む「指導スキル」を培う資格です。

「子育て支援プロジェクトリーダー」資格は、保育士・幼稚園教諭をはじめ、スポーツインストラクター等、運動をとおして子どもと関わる仕事に携わる社会人に向け、所定の研修講座を受講し認定試験に合格した者に、財団が授与する資格です。

環太平洋大学のこども発達学科では、こども教育支援財団と連携し、在学中に学科が定める所定の単位を修得することで、資格取得が可能になります。

<子育て支援プロジェクトリーダーの資格を取得するには>

本学のこども発達学科の学生は、次頁の指定科目の単位を全て修得すると、子育て支援プロジェクトリーダー資格を取得できます。

●子育て支援プロジェクトリーダー 科目一覧

No.	授業科目の名称	配当年次	単位数	授業方法	場所	履修条件
1	(子育て支援実践演習Ⅰ) 保育マネージメント演習Ⅰ	2	1	演習	IPU	無
2	(子育て支援実践演習Ⅱ) 保育マネージメント演習Ⅱ	2	1	演習	IPU	「保育マネージメント演習Ⅰ」を履修済みの者
3	(幼児スポーツイベント運営実習Ⅰ) 幼児体育指導法Ⅰ	3	1	演習	IPU	無
4	(幼児スポーツイベント運営実習Ⅱ) 幼児体育指導法Ⅱ	3	1	演習	IPU	無
5	(幼児スポーツイベント運営実習Ⅲ) 幼児体育指導法Ⅲ	4	1	演習	IPU	無
6	子育て論	2	2	講義	IPU	無

(2) 乳幼児ケアヘルパー（基礎）

対象学科：こども発達

<乳幼児ケアヘルパー（基礎）の役割とは>

こども教育支援財団では、保育・教育福祉の領域で主に乳幼児を対象に仕事をしておられる方々、また地域で子育て支援の活動をされている方を対象とした「乳幼児ケアヘルパー（初級）」資格研修を実施しています。

「乳幼児ケアヘルパー（基礎）」資格は、学生を対象としたその基礎研修です。保育士・幼稚園教諭、児童養護施設等の職員をはじめ、保育・幼児教育・福祉の現場で必ず直面する「子どもの育ちへの理解とかかわり」

「子育て家庭へのサポート」について、その臨床事例に基づき「理論」と「実践」を学びます。将来、保育・教育・福祉等の仕事に就く上で必要な「実践的スキル」獲得につながる資格です。

環太平洋大学のこども発達学科では、こども教育支援財団と提携し、在学中に学科が定める所定の単位を修得し、財団研修を受講することで、資格取得が可能となります。

<乳幼児ケアヘルパー（基礎）の資格を取得するには>

本学こども発達学科の学生は、次頁の指定科目・研修をすべて履修すると「乳幼児ケアヘルパー（基礎）」資格を取得できます。

●乳幼児ケアヘルパー（基礎） 科目一覧

①本学科科目

No.	授業科目の名称	配当年次	単位数	授業方法	場所	履修条件
1	(子育て支援実践演習Ⅰ) 保育マネージメント演習Ⅰ	2	1	演習	IPU	無
2	(子育て支援実践演習Ⅱ) 保育マネージメント演習Ⅱ	2	1	演習	IPU	「保育マネージメント演習Ⅰ」を履修済みの者
3	(子育て支援実践演習Ⅲ) 保育マネージメント演習Ⅲ	3	1	演習	IPU	「保育マネージメント演習Ⅱ」を履修済みの者
4	(子育て支援実践演習Ⅳ) 保育マネージメント演習Ⅳ	4	1	演習	IPU	「保育マネージメント演習Ⅲ」を履修済みの者
5	子どものこころ	3	2	講義	IPU	無

(3) 学習心理支援カウンセラー（教員入門課程）

対象学科：教育経営・こども発達

<学習心理支援カウンセラーとは>

公益財団法人が認定する教員向けの資格研修プログラムです。現代の多様化した子どもたちのニーズに応える教育実践家を育てることを目的にしています。

教育諸問題としてあげられる、いじめ、不登校、発達課題のある子どもへの指導に加え、対応の難しい保護者との関係構築や教員のバーンアウト、世代の入れ替わりなど、教育現場では様々な問題に直面しています。これらの学校が抱える課題の解決には、学校になじめない子どもたちの存在を理解すると同時に、保護者への支援、教員間の協力、専門機関との連携、支援しあえるクラスづくり等に関する知識や技法が有効と考えています。

本資格は、教員1年目向けの「基礎課程」、3～5年目向けの「実践課程」、5年目以上向けの「専門課程」があり、多くの現役教員が資格取得しています。これらの課程をもとに、将来教員を目指す方向けにつくられたのが「教員入門課程」です。資格有効期間は3年、資格認定料は5,000円。希望者には、「基礎課程」の受講案内を卒業後に送付します。

<学習心理支援カウンセラー（教員入門）を取得するには>

●学習心理支援カウンセラー（教員入門） 科目一覧

No.	授業科目の名称	配当年次	単位数	授業方法	備 考
1	発達心理学	2	2	講義	
2	教育相談（初等）	2	2	講義	いずれか1科目を履修
	教育相談（中等）	2	2	講義	
3	生徒指導・進路指導論	2	2	講義	

●その他

カテゴリ	内 容	コマ数等	取得年次	備 考
スクーリング	集中講座1	7.5コマ	3年時の2月	月曜日1限～5限＋火曜日1限、2限＋レポート
	集中講座2	7.5コマ	3年時の2月	火曜日3限～5限＋水曜日1～4限＋レポート
在宅学習	指定科目「学校支援ボランティア」に関するレポート1本	2単位相当	3年時の1月までに	
	教育あるいは心理に関する講演会への参加	3時間程度の講演会	3年時の1月までに	
試 験	筆記試験（60分）	*	3年時の3月	不合格者には4年生秋に追試を実施。

12. 社会調査士資格

(1) 資格の内容

対象学科：現代経営

社会調査士とは、社会調査の知識や技術を用いて、世論や市場動向、社会事象等をとらえることのできる能力を有する「調査の専門家」のことです。IPU経済経営学部で社会調査に関する上記指定の授業をうけ、規定の単位を取得した後に、社会調査協会に申請することで認定されます。多くの一般企業、公務員、各種団体において、調査・分析が行える即戦力として、社会調査士資格保持者に対するニーズは年々上がってきています。

(2) 修得すべき科目と単位数

本学において社会調査士の取得を希望する場合は、下記の表に示されているカリキュラム（6科目）のすべてを卒業までに履修し単位を修得すれば、卒業時に、社会調査士資格を申請し取得できます。

※現代経営学科の所属学生であることが条件。

受講時期(●は、履修する学年と学期を記載している)

対象資格	授業科目名	科目区分	単位	1年		2年		3年		4年	
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
社会調査士	A科目 社会調査法	専門基礎	2	●							
	B科目 マーケティングリサーチ	コア	2			●					
	C科目 情報分析論	コア	2					●			
	D科目 統計学	教養	2				●				
	F科目 プロジェクト研究	専門基礎	2			●					
	G科目 特別演習Ⅲ(社会調査士)	コア	4					●			

(3) 申請手続

■ 「社会調査士（キャンディディート）」の申請（任意：在学中）

大学在学中に、「社会調査士（キャンディディート）」を取得し、認定証（社会調査士取得の見込み者）の発行を受け、就職活動に使用できます。以下の3条件を満たす必要があります。

1. 現代経営学科の在籍期間が2年以上であること。
2. 申請時までに、上記表に記載の6科目の内、3科目以上単位修得していること。
3. 2の単位修得済み科目と申請年度に履修中の対象科目の合計が5科目以上であること。

※申請にあたって、審査・認定手数料は、16,500円（税込）の払い込みが必要です。

※受付期間は、例年①6月中旬～7月上旬、②10月上旬～10月下旬となります。（2020年12月時点）

※社会調査士科目をすべての単位を修得したら、正規資格へと変更する手続きが必要となります。

社会調査士（キャンディディート）から正規資格への変更手続きが出来る有効期限は、「社会調査士（キャンディディート）」を認定されてから3年以内です。

■ 「社会調査士」の取得（卒業時）

本学の社会調査士対象6科目を在学中に単位修得すれば、卒業時に、社会調査士資格が取得できます。

【資格申請要件】

- ・学部卒業
- ・社会調査士科目（上記6科目）を在学中に単位を修得

【資格申請】

- ・審査手数料を振込み、受領証のコピーを申請書の裏面に貼り付けてください。
- ・申請書、および単位修得・卒業を証明する書類を学科長へ提出してください。

【審査手数料】

- ・社会調査士（キャンディディート）取得者：¥5,500（資格変更手数料）
- ・社会調査士（キャンディディート）未取得者：¥16,500（認定審査手数料）

13. 第一種衛生管理者免許

(1) 資格の内容

対象学科：体育・健康科学・現代経営（平成30年度入学生から適用）

第一種衛生管理者は、企業における「労働災害の防止」「危害防止基準の確立」「責任体制の明確化」「自主活動の促進」「労働者の安全と健康の確保」「快適な職場環境形成」などを目的に、従業員の健康管理・健康的な職場環境づくりの専門家です。

従業員50名以上の事業所では、この資格者の常駐が義務づけられており、また同免許保持者は全ての業種においてその業務に当たることができます。

一般的には厚生労働大臣の指定する指定試験機関が実施する国家試験に合格する必要がありますが、本学では指定科目を修得することで試験免除となります。指定科目単位を修得して卒業後に申請すれば、同免許を取得できます。

(2) 修得すべき科目と単位数

本学において第一種衛生管理者免許の取得を希望する場合は、下記の表に示されている開講科目のすべてを卒業までに履修し単位を修得しなければなりません。

※**体育学科・健康科学科・現代経営学科の所属学生であることが条件。**

※国家試験免除のため、下記3科目（労働衛生学、労働法規、労働安全衛生法）の受講までに、以下の要件に満たしていない者は当該3科目（労働衛生学、労働法規、労働安全衛生法）の受講が許可されないので、注意すること。（要件を満たしていない者が履修した場合は、自動的に履修削除となります。）

3科目（労働衛生学、労働法規、労働安全衛生法）の受講要件：通算GPA2.5以上、前年度の正課科目出席率が前期・後期それぞれ85%以上

体育学科・現代経営学科

本学開講科目			取得要件
科 目 名	単位	配当年次	
救急処置	2	2	すべて修得
公衆衛生学	2	2	
運動生理学	2	2	
スポーツバイオメカニクス	2	2	
解剖生理学	2	2	
健康管理とスポーツ医学	2	3	
労働衛生学	2	3	
労働法規	2	3	
労働安全衛生法	2	3	
合 計	18	—	

※体育学科の学生のうち、アスレティックトレーナーとJPSU-STを希望する学生は「救急処置(AT)」を履修すること。

※体育学科の学生のうち、CSCSを希望する学生は「救急処置(CSCS)」を履修すること。

※体育学科の学生のうち、上記の資格を希望しない学生と、現代経営学科の学生は、「救急処置(衛生管理者)」を履修すること。

健康科学科

本学開講科目			取得要件
科 目 名	単位	配当年次	
解剖学 I	2	1	すべて修得
解剖学 II	2	1	
救急処置	2	2	
運動生理学	2	2	
スポーツバイオメカニクス	2	2	
公衆衛生学 I	2	3	
公衆衛生学 II	2	3	
健康管理とスポーツ医学	2	3	
労働衛生学	2	3	
労働法規	2	3	
労働安全衛生法	2	3	
合 計	22	—	—

※健康科学科の学生のうち、アスレティックトレーナーとJPSU-STを希望する学生は「救急処置(AT)」を履修すること。

※健康科学科の学生のうち、CSCSを希望する学生は「救急処置(CSCS)」を履修すること。

※健康科学科の学生のうち、上記の資格を希望しない学生は「救急処置(衛生管理者)」を履修すること。

(3) 申請手続

卒業後、個人で申請することになります（4年次生年度1月中旬以降に免許の申請方法案内を教務課で配布します）。

申請は、申請者の住民票のある都道府県労働局の安全衛生を担当する課に直接、申請書及び添付書類を提出することにより行います。

《申請に必要な書類》

- ・申請書（所定様式あり）
- ・卒業証明書
- ・成績証明書
- ・写真、切手（404円）、収入印紙（1,500円）
- ・本人確認証明（健康保険被保険者証、自動車運転免許証等の公的な書面）

「岡山県」で資格申請する機関

岡山労働局労働基準部健康安全課

14. 日本語教師 認定資格

(1) 資格の内容

対象学科：全学科（ただし、こども発達学科、体育学科、健康科学科は他学科履修）

日本語教師とは、日本語学習者に対し直接日本語を指導する者のことです。本資格を取得すると、法務省告示の日本語教育機関で働くための資格として認められます。また、海外で日本語教師として働く場合にも有効です。

(2) 修得すべき科目と単位数

本学において日本語教師の資格を取得するためには、下記の表に示されている科目の単位をすべて修得し、かつ、本学を卒業することが求められます。

<教育経営学科科目>

No.	科目区分	授業科目の名称	授業種別	配当年次	単位数選択	備考
1	専門基礎	日本語教育概論 I	講義	2	2	
2	専門基礎	日本語学 I	講義	2	2	
3	専門基礎	日本語教育概論 II	講義	3	2	※日本語教育概論 I を修得していること
4	専門基礎	日本語学 II	講義	3	2	※日本語学 I を修得していること
5	専門基礎	言語学	講義	3	2	※日本語教育概論 I を修得していること
6	専門基礎	社会言語学	講義	3	2	※日本語教育概論 I を修得していること
7	専門基礎	異文化コミュニケーション論	講義	1	2	
8	コア	日本語教授法 I	講義	3	2	
9	コア	日本語評価法	講義	3	2	
10	コア	日本語教授法 II	講義	4	2	※日本語教授法 I を修得していること
11	コア	日本語教育演習 I	演習	4	2	※日本語教育演習 II と連続で履修すること
12	コア	日本語教育実習 I	実習	4	1	※日本語教育実習 II と連続で履修すること
13	コア	日本語教育演習 II	演習	4	2	
14	コア	日本語教育実習 II	実習	4	1	
				26		

<現代経営学科科目>

No.	科目区分	授業科目的名称	授業種別	配当年次	単位数選択	備考
1	専門基礎	日本語教育概論 I	講義	2	2	
2	専門基礎	日本語学 I	講義	2	2	
3	専門基礎	日本語教育概論 II	講義	2	2	※日本語教育概論 I を修得していること
4	専門基礎	日本語学 II	講義	2	2	※日本語学 I を修得していること
5	専門基礎	言語学	講義	2	2	※日本語教育概論 I を修得していること
6	専門基礎	社会言語学	講義	2	2	※日本語教育概論 I を修得していること
7	コア	異文化コミュニケーション	講義	1	2	
8	コア	日本語教授法 I	講義	3	2	
9	コア	日本語評価法	講義	3	2	
10	コア	日本語教授法 II	講義	3	2	※日本語教授法 I を修得していること
11	コア	日本語教育演習 I	演習	3	2	※日本語教育演習 II と連続で履修すること
12	コア	日本語教育実習 I	実習	3	1	※日本語教育実習 II と連続で履修すること
13	コア	日本語教育演習 II	演習	4	2	
14	コア	日本語教育実習 II	実習	4	1	
				26		

(3) 履修方法と履修制限

- ・履修を希望する者は2年次と3年次にそれぞれ行われる説明会に必ず参加して履修の説明を聞いておくこと。
- ・各科目を履修する際は備考欄の履修条件を満たすこと。
- ・8以降のコア科目の履修をするためには、基本的には1～6の科目をすべて修得していること。
- ・同一科目名でI、IIがある科目については、基本的にIを修得したのちIIを履修すること。
- ・非日本語母語話者が履修する場合、日本語能力試験N2以上相当であること。できればN1以上相当であることが望ましい。
- ・日本語教育実習を実施するにあたって、6,000円の実習費用が必要となる。
- ・上記の条件に合わない場合や質問がある場合は、国際・教養教育センターまで連絡すること。

(4) 修了証申請手続

本課程を修了した者には、本学認定の修了証を発行することができます。この修了証は日本語教育機関等で働くための資格として有効です。

申請の申し込みは1月（3月卒業生）と7月（9月卒業生）に案内します。